

リアホサ

聖典はどのように
翻訳されるのでしょうか、
20ページ

新しく召された使徒、
ロナルド・A・ラズバンド長老に
ついて知る、12ページ

シニア夫婦宣教師 ——
仕えるために召され、26ページ

夫がポルノグラフィーで苦しむとき、
妻も癒やしを必要としている、
34ページ

賛美歌が10分で弾けるようになる、
54ページ





「見よ、主はこう言われる。
『おお、イスラエルの家よ、
わたしはあなたを、
人が自分の果樹園に
植えて養いを与えた、
一本の栽培された
オリーブの木に
たとえよう。……
……あなたがたは
幸いである。
あなたがたは、
わたしの果樹園で
わたしと一緒に熱心に働き、
わたしの命じたことを守り、
わたしのために
再び自然の実が
得られるように
してくれたからである。
わたしの果樹園は
もはや悪くない。
悪い枝は捨ててしまった。
だから、あなたがたは
わたしの果樹園の実のことで、
わたしと一緒に
喜びを得るであろう。』」

モルモン書ヤコブ5:3, 75

オリーブは地中海諸国で広く栽培されているが、ノアにオリーブの葉を運んで来た鳩の話から救い主がオリブ山で教えられた話まで、聖典に関連のある長い歴史を持っている。



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
預言と個人の啓示
ヘンリー・B・アイリング管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
永遠の御父の娘

特集

- 12 ロナルド・A・ラズバンド長老——
才能豊かな指導者、献身的な父親
M・ラッセル・バラード長老
良き夫であり父親であるラズバンド長老は、傑出したビジネスの指導者や神権指導者の助けを通して指導力を培ってきました。
- 18 彼がビショップですって？
パトリック・J・クロニン3世
わたしがビショップとして奉仕していることを彼女が信じられなかったのも分かります。30年前、わたしはまったく違う人間だったのですから。

- 20 聖典の翻訳——
わたしたちの心の言語に
R・バル・ジョンソン
母国語で聖典を読むことは、霊的に家に帰って来るようなものです。
- 26 シニア宣教師が輝く瞬間
ラッセル・M・ネルソン会長
すばらしいシニア宣教師という時とともに作り出すこの機会について祈ってください。
- 28 シニア宣教師——必要とされ、祝福され、そして愛されて
リチャード・M・ロムニー
夫婦は、伝道が想像以上に柔軟でお金もかからず、しかも喜びに満ちているということを知りましょう。
- 34 ポルノグラフィーが家庭を襲うとき、妻と夫の両方に癒やしが必要です
匿名
ポルノグラフィーで苦しんでいる夫だけでなく、同じぐらい救い主の癒やしを必要としている妻をもどのように助けているかについて、あるビショップが話しています。

- 38 塔の見張り人
預言者がどのように塔の見張り人のようであるかを学ぶことで、預言者への理解を深めましょう。

シリーズ

- 8 熟考——
その指示は理にかなっていますか
ルース・シルバー
- 9 教会での奉仕——
あなたの奉仕に感謝します
匿名
- 10 福音クラシック——
神権——しっかりした錨
L・トム・ペリー長老
- 40 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで——
御霊の賜物を求める
ジョージ・Q・キャンノン管長

表紙
表紙と裏表紙——
写真/レス・ニルソン
表紙裏——
写真/©RayTango/Thinkstock

48



44 サタンの偽りを見破る

デニス・C・ゴント

サタンのうそとキリストの教えの共通点ではなく違いを探することで、わたしたちはサタンの偽りを見破ることができます。

48 ヤングアダルトの

プロフィール

マダガスカルで祝福を数え上げる

ミンディー・アン・セル

多くの困難がある国で生活しているにもかかわらず、ソロフォ・ラベロジャオーナは、彼の人生は祝福であふれていると感じています。



今月号の中に

隠れている

リアホナを

探しましょう。

ヒント

このヒントに従うには、

預言者に

従いましょう。

50 霊の安定

沈むことのない船を造る

デーブ・G・レンランド長老

船が安定するよう注意深く造られるのと同じように、これらの4つの原則によってわたしたちも人生に安定をもたらすことができます。

54 10分で賛美歌が弾けるように

ダニエル・カーター

もしあなたが、ピアノを一度も弾いたことがないけれどもずっと弾いてみたかったと思っているのなら、始める方法がここにあります。

57 やめる決意で

グレッチェン・ブラックバーン

ピアノを弾くのをやめられるなら何でもするつもりでした。ですから両親がわたしに賛美歌を50曲マスターしたらやめてもいいと言ったとき、わたしはやってみました。

58 ショックと悲しみと神の計画

パオラ・サジューピ

人生で最もつらい経験を通して、わたしは天の御父が生涯ともにいてくださることを感じました。

60 内気な人でも

ジョセ・A・ティシエラ長老

主に頼ってください。そうすれば、主は福音を分かち合おうとするあなたの努力を祝福してくださいます。

62 わたしたちのスペース

63 ポスター

おいしそうに見えますか

64 質疑応答

わたしは学校で、末日聖徒であるということですからかわれます。自分の信じることを毅然と守る必要があることは分かっていますが、とても難しいです。どうすれば、必要な勇気が得られますか。



76

66 使徒からの答え

使徒は何をする人ですか

デビッド・A・ベドナー長老

67 心の平安

キャロル・F・マッコスキー

預言者を見て、話すのを聞いたとき、平安を感じました。

68 イーサンのあかし

ラリー・ヒラー

イーサン以外みんなあかしを持ってるように思えました。

70 天のお父様にささげるペン

アンジェラ・ベニヤ・ダーリ

もうお金はなく、アナは思いました。「あした、何を食べるのかしら？」

72 預言者と使徒にしたがう

ジェナ・コフォード

今月、あなたはどのように預言者にしたがえるでしょうか。

74 モルモン書のヒーロー

くいあらためた アルマ

75 わたしはモルモン書を読むことができます

76 モルモン書ものがたり

多くの人にバプテスマを

ほどこす アルマ

79 色をぬりましょう

あんそく日はとくべつな日

家庭の夕べのためのアイデア

この機関誌には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に例を挙げます。



「内気な人でも」60 ページ——家庭の夕べを利用して福音を伝えることができます。何を恐れているために福音が伝えにくくなっているのか、家族で話し合しましょう。自信を持って福音を伝えることができるよう家族で主に助けを祈り求め、そのうえで、誰を家庭の夕べに招待したらよいか祈ります。レッスンの中で一人一人に証を述べてもらうとよいでしょう。回復や救いの計画に関するレッスンを教えることにしてもいいかもしれません。自分の経験したことや感じたことを日記に記録するとよいでしょう。

インターネットで得られる追加情報

languages.lds.org で、『リアホナ』やその他の教会の資料を多くの言語で入手できます。靈感あふれるメッセージや家庭の夕べのアイデア、日曜日のレッスンのためのヒントや、友達、家族と分かち合える内容を見つけるために、[Facebook.com/iahona.magazine](https://www.facebook.com/iahona.magazine) (現在は英語・スペイン語・ポルトガル語のみ) をご覧ください。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

愛, 40	悲しみ, 58	弟子の務め, 12, 26
証, 64, 68	神の特質, 7	伝道活動, 26, 28, 60
安息日, 79	悔い改め, 18, 74	バプテスマ, 75, 76
イエス・キリスト, 20, 34, 43, 58	啓示, 4, 10, 20, 41, 42, 50, 70, 72	平安, 50, 67
偽り, 44, 63	才能, 40, 54	奉仕, 9, 26, 28, 41
祈り, 41, 64	従順, 8, 34, 62, 72	ボルノグラフィ, 34
戒め, 8, 72	什分の一, 62, 70	召し, 18
教え, 75	正直, 62	モルモン書, 43, 44
音楽, 54, 57	贖罪, 34	勇気, 48, 64
改心, 43, 58, 75, 76	信仰, 34, 48, 58, 60	赦し, 34
活発化, 18	聖典, 20	預言者と使徒, 10, 12, 66, 67, 72
家庭訪問, 9	聖霊, 44, 50	霊的な賜物, 80



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・
アイリング管長

預言

と

個人の啓示

イエス・キリストのまことの教会は回復されました。そして今日、地上にあります。末日聖徒イエス・キリスト教会は、天から絶え間なく導きを受けている生ける預言者と使徒によって常に導かれてきました。

その神聖な方式は昔も同じでした。聖書に次のように述べられています。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」(アモス 3:7)

神はわたしたちの時代に、預言者ジョセフ・スミスを通して再び語られました。預言者ジョセフを通して、イエス・キリストの福音を余すところなく啓示されました。聖なる神権とその鍵、ならびに神権の全ての権利と力、また神権の神聖な力の働きを回復されました。

わたしたちの時代に、生ける預言者と使徒は、父なる神と主イエス・キリストから授かった権能をもって語り、教え、指導する権限を与えられています。救い主は預言者にこう言っておられます。「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであって、わたしは言い逃れをしない。たとえ天地が過ぎ去っても、わたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する。わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約 1:38)

年に2回の総大会において、わたしたちは祝福されて、わたしたちに宛てた主の言葉を主の僕たちから聞く機会があります。それは非常に貴重特権です。しかし、その機会

が価値あるものになるかどうかは、主の言葉が御霊^{みなたま}によって主の僕たちに与えられたように、わたしたちも同じ御霊の影響の下でその言葉を受け入れるかどうかにかかっています(教義と聖約 50:19 - 22 参照)。主の僕たちが天から導きを受けると同様に、わたしたちも導きを受けなければなりません。わたしたちも同じ霊的な努力をする必要があります。

「努力しなさい」

何年も前に、十二使徒定員会の会員の一人から、彼が総大会のために準備している大会の話を読んでほしいと頼まれたことがあります。わたしは定員会の新しい会員でした。光栄なことに、その人は、わたしの助けがあれば主が告げさせたいと思っておられる言葉を知ることができると、わたしを信頼してくれたのです。そして笑いながら「これは話の22回目の下書きですよ」と言いました。

わたしは、愛情深く思いやりのあるハロルド・B・リー大管長(1899 - 1973年)が強く勧めてくれた助言を思い出しました。「ハル(訳注 — 「ヘンリー」の愛称)、啓示を受けたければ、努力しなさい。」

わたしはその22回目の下書きを読み、深く考え、祈りました。聖霊の影響下で最善を尽くして研究しました。その十二使徒定員会会員が話をするときまで、わたしは努力し続けました。彼の助けができたかどうか分かりませんが、彼の話の聞いて、自分が変わったことは分かります。わたしが



既に読んでいた言葉を彼は語りましたが、わたしに伝わったメッセージはその言葉をはるかに超えるものでした。その言葉には、わたしが下書きで読んだ以上の深い意味がありました。そして、そのメッセージは、わたしに宛てた、わたしの必要を満たすものであるように思われました。

神の僕たちは断食と祈りによって、啓示と靈感を必要としている人々に神が伝えたいと思っておられるメッセージを受け取ります。わたしがその経験やそのような他の多くの経験から学んだことですが、生ける預言者と

使徒の話聞くことから大なる恩恵を受けるために、わたしたちも自ら啓示を受ける代価を払わなければなりません。

主は御自分のメッセージを聞く全ての人を愛しておられます。そして、各人の心と状況を御存じです。何を正し、何を励まし、福音のどの真理を伝えれば、それぞれの人が永遠の命に至る道を歩む選びをするのに最も助けになるかを、主は御存じです。

総大会のメッセージを視聴するわたしたちは時折、その後で、「一番心に残っているのは何だろうか」と考え

ます。主がわたしたち一人一人に望んでおられるのは、わたしたちが次のように答えることです。「天の御父と救い主に喜んでいただくために何ができるか、御霊はわたしの思いと心に告げてくださいました。わたしはその瞬間を決して忘れません」と。

預言者と使徒の言葉に耳を傾けるとき、そして啓示を受けるためにリー大管長が述べたように信仰をもって努力するとき、わたしたちは個人の啓示を受けることができます。わたしは経験から、また御霊の証^{あかし}によって、それが真実であることを知っています。■

このメッセージから教える

✦ 二使徒定員会会員の大会の話の下書きを研究したというアイリング管長のエピソードを声に出して読むとよいでしょう。「啓示を受けるために何を必要があるのでしょうか」と尋ねるとよいかもしれません。話し

合った後、訪問先の人たちに、次回の総大会のメッセージを「御霊によって〔神の〕僕たちに与えられたように、……同じ御霊の影響の下で」受け入れる計画について深く考え、実行するように勧めるとよいでしょう。

天の御父は大会の話を通じて わたしに語りかけてくださいました

アン・ラレスカ・アルベス・デ・ソウザ

わたしは大学で何を勉強するべきか迷っていました。取りたいと思っていた科目について、ほとんどの人が悪く言っていたので、主がわたしの決意に同意してくださるかどうかわかるために主に祈りました。

答えは次の日に与えられました。『リアホナ』の総大会の話を読んでいたときのことです。天の御父がわたしに代わって選ぶことはできないと告げておられるかのように、わたしには感じられました。すなわち、これはわたしが自分だけで決めなければならないことでした。わたしは何を選ぼうと、達成するためには一生懸命に努力しなければならないということを知っていました。

祈りが聞き届けられたことを、わたしは知っています。わたしが



決心するのに、聖霊の確認が助けとなりました。わたしは最善を尽くすことを学びました。そして、天の御父が助けてくださることを知っています。

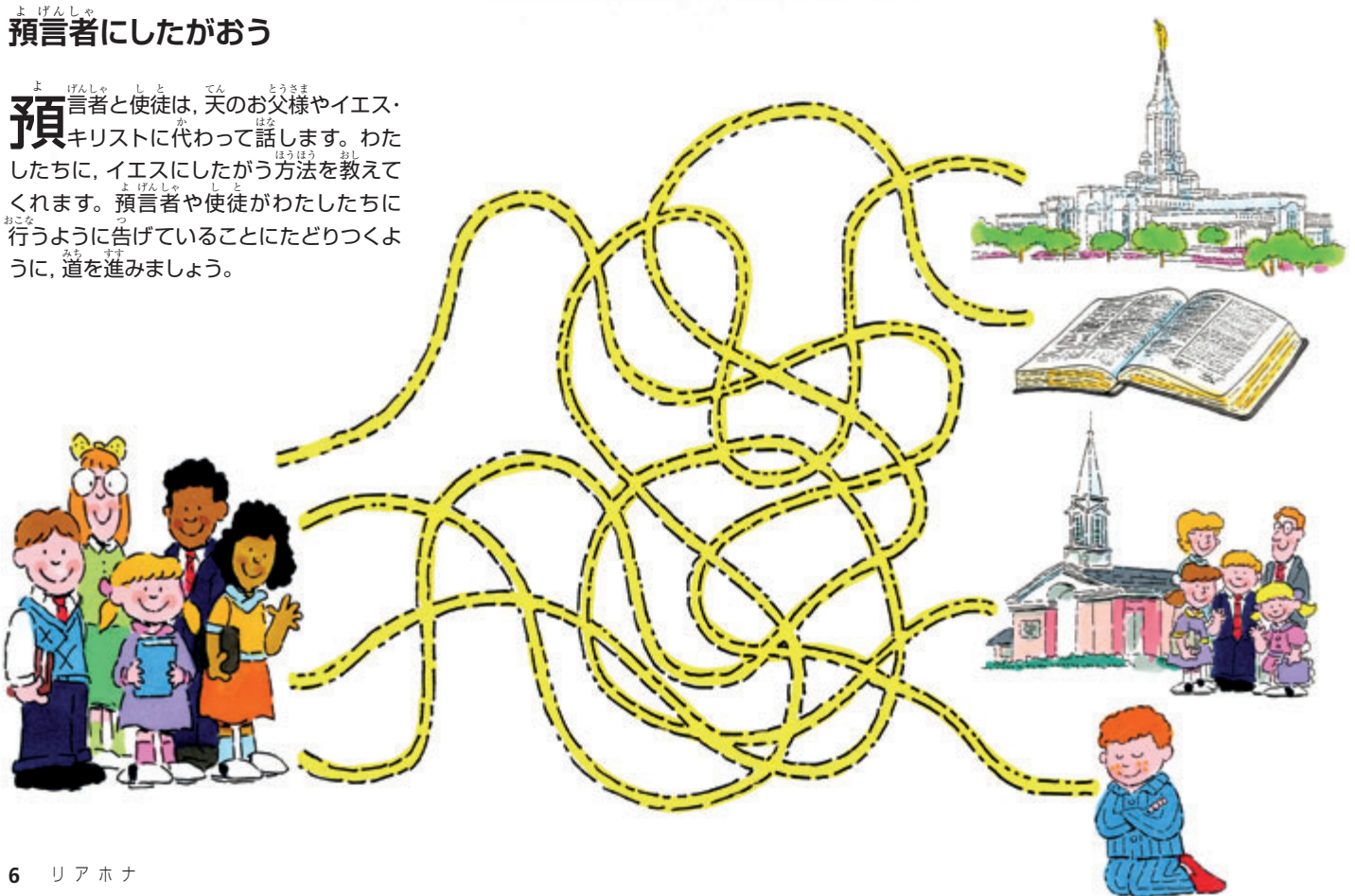
筆者はブラジル、セルジッペ在住です。

フオットロニストはイメージです

こども

預言者にしたがおう

預言者と使徒は、天のお父様やイエス・キリストに代わって話します。わたしたちに、イエスにしたがう方法を教えてください。預言者や使徒がわたしたちに行うように告げていることにたどりつくように、道を進みましょう。



イラスト/バルチャドウィック・パブリー

よく祈りながらこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるようお願いしてください。
「家族——世界への宣言」を理解することは、神を信じるあなたの信仰をどのように増し、
家庭訪問を通してあなたが見守っている姉妹をどのように祝福するでしょうか。
詳しくは www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn をご覧ください。

永遠の御父の娘

聖文は、「われわれは神の子孫なのである」と教えています（使徒 17:29）。神は預言者ジョセフ・スミスの妻エマ・スミスに「わたしの娘」と呼ばれました（教義と聖約 25:1）。家族の宣言には、わたしたちが「天の両親から愛されている霊の……娘で」と書かれています。¹

「前世でわたしたちは、女性の永遠の特性について学びました」と中央扶助協会会長会第一顧問のキャロル・M・スティーブンス姉妹は述べています。

「肉体を得るために地上に来て、この真理は変わりませんでした。」²

「天の御父は皆さんの名前も状況も御存じです」と十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は語っています。「〔御父は〕皆さんの祈りをお聞きになります。望みも夢も、恐れや挫折も御存じです。」³

「誰もが神の家族の一員であり、必要とされています」とスティーブンス姉妹は言います。「地上での家族はそれぞれが異なります。しか



し、堅固で伝統的な家族を作ろうと最善を尽くしている限り、わたしたちはいつも神の家族の一員です。これは、既婚や未婚、子供の有無、経済状況、地位などはまったく関係がありません。ソーシャルメディア上のステータスとも関係ありません。」⁴

その他の聖句

エレミヤ 1:5；ローマ 8:16；教義と聖約 76:23 - 24

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129
2. キャロル・M・スティーブンス「神様からの家族」『リアホナ』2015年5月号, 11
3. ジェフリー・R・ホランド「若い女性の皆さんへ」『リアホナ』2005年11月号, 28
4. キャロル・M・スティーブンス「神様からの家族」11
5. 福音のテーマ「最初の示現に関する記録」の項, topics.lds.org 参照



信仰・家族・扶助

わたしたちの歴史から

最初の示現に関する記録の中で、⁵ 預言者ジョセフ・スミスは多くの真理を明らかにしています。その中に、天の御父がわたしたちの名前を御存じであるという真理があります。

少年ジョセフはどの教会に加わるべきか懸命に知ろうと努め、導きとなる言葉であるヤコブの手紙第1章5節に行き着きました。ジョセフは、神に尋ねようと決心しました。

1820年のある春の朝、ジョセフは祈るために森に入りましたが、祈り始めるやいなや何らかの邪悪な力に捕らえられました。そのときのことについてこう記しています。

「この非常な恐怖の瞬間に、わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

それが現れるやいなや、わたしはわが身を縛った敵から救い出されたのに気づいた。そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」（ジョセフ・スミス—歴史 1:16 - 17）

考えてみましょう

自分が神の娘であるという知識は、あなたが下す決定にどのような影響を及ぼすでしょうか。

その指示は理にかなっていますか

ルース・シルバー

自転車旅行をしたことで、主が与えてくださった人生の道路地図を常に確認していなければならないことがよく分かりました。

数年前フランスで、わたしは姉と義理の姉、そしてその娘と一緒に自転車旅行をしました。毎朝、3ページもの詳細な指示書が手渡されました。その指示どおり行けば、その日の目的地に到着できるというわけです。ブドウ畑を通っているときは、「50メートル北に行ったら左に曲がって100メートル行く」というような指示でした。またそれ以上に、標識や通りの名前が細かく記されていました。

ある朝のことです。わたしたちは景色の良い道を走っていましたが、間もなく、指示が周りの様子と合っていないことに気づきました。道に迷ってしまうのに時間はかかりませんでした。そこで、正しい道だと分かっていた最後の地点まで引き返し、どちらの方向に行くべきか調べることにしました。

思ったとおりでした。そこに着くと、指示書に書かれている小さな道路標識がありました。わたしたちはそれを見逃したのです。すぐに出発しましたが、今度は指示をよく確認しながら進みました。指示は再び完全に理

にかなったものになりました。

この経験が良いたとえとなって、以前から抱いていた疑問が解けました。疑問というのは、福音の証^{あかし}を持っている人が福音から離れていくのは一体どうしてなのだろうか、というものです。道を誤ったり(罪を犯す)、神の戒めに従わなかったりすると、指示(神の言葉)は意味を成さなくなるとはっきり分かったのです。先ほどの例のように、もはや地図は自分のいる場所では用を成さなくなります。まだそれほど道からそれていなければ、非が自分にあることに気づき、元に戻る(悔い改める)、つまり、正しい道を進んでいたと分かっていた場所まで戻り、神が命じられたように生活することを再度決心する必要があることに気づけるかもしれません。

自分のいる場所で指示が合わなくなると、その指示に疑問を抱くことがよくあります。そんなとき、元の場所に戻ろうとせず、間違っているのは指示だとして、全てを指示のせいにしてしまいます。ついには目的地を見失

い、迷子になるのです。そこでとりあえず、とても魅力的に見える道をさまよいますが、行くべき場所にはたどり着きません。

毎日、わたしたちには聖文を研究する機会があります。さらに6か月ごとに、教会の総大会にという特別な機会にあずかります。そうした機会は、道路地図を調べ、自分がいるべき場所にいるかどうか確認できるときではないでしょうか。以前総大会を聞いていたとき、わたしたちは不完全であっても大会で教えられる指示が完全に理にかなっているなら、自分が正しい道を進んでいると知ることができると感じました。

正しい導きに従えばこの世における目的地に着くことができるように、聖文を研究し、生ける預言者の勧告に聞き従うことで、自分がたどっている道を確認し、必要に応じて修正していけば、最終的に、日の栄えの家に着くことができるのです。■

筆者はアメリカ合衆国コロラド州在住でしたが、昨年亡くなりました。



あなたの奉仕に感謝します

匿名

あなたは、ノーブーの時代以来、
愛と靈感による家庭訪問を通して
仕え合ってきた女性の典型です。

わたしはあなたの名前も年齢も、
その他あなたについて何も
知りません。知っているのはジョ
アン（仮名）の訪問教師だとい
うことだけですが、あなたの熱心
な奉仕に心から感謝しています。

義理の娘ジョアンのような、そ
れほど活発でない姉妹を訪問す
るのは楽ではないことを知って
います。あまり歓迎されない場合
は特にそうです。彼女も最初は、
来てほしくないと思ったこと
でしょう。でも、あなたが本当の友
達になって、様子を見に立ち寄っ
てくれ、またありのままの彼女を受け入
れてくれたとジョアンから聞きました。

ジョアンはわたしの息子と結婚して
19年になりますが、訪問教師が
いると言ったのは初めてです。つい先
日も、あなたが定期的に訪問し、いつも
思いやりを示してくれ親切だと言
っていました。体調を崩したときに何度か
助けてもらったこと、そして孫娘を若
い女性のクラスに連れて行こうと申し
出てくれたことも聞きました。

この10年間、息子夫婦と子供たち
は、わたしたちから何百マイルも離
れた所に住んでいます。わたしは、誰か
がわたしと同じように彼らを愛し、大
事にしてくれるよう祈ってきました。



また、わたしが近くに住んでいたら
するように、手を差し伸べてくれる人が
いてほしいと涙ながらに天の御父に
願い求めてきました。ジョアンの言葉
から察するに、あなたはわたしの祈り
の答えです。

ジョアンとわたしの息子には知恵の
言葉の問題があり、教会にも行って
いませんが、二人は善良な人間であり、
子供たちを愛しています。どうやら
ジョアンのタバコの煙もあなたの目を
曇らすことはなかったようですね。
あなたは教会に行っているかどうか
でジョアンの人間性を判断しません
でした。彼女と仲良くなり、彼女が愛情
深い母親で、娘には教会に行つて証を

得てほしいと願っていることに
気づいてくれました。また、
ジョアンが手術を受けたとき、
健康上の問題は自業自得か
もしれないと決めつけたりせず
に、夕食を届けてくれました。

あなたが孫娘の模範であるこ
とに心から感謝しています。全
ての人に思いやりを示し、心
を砕いて優しい気遣いを示す
あなたを、孫娘は尊敬してい
ます。あるときには、車がな
かったにもかかわらず、小さい子
供たちを連れて1マイル（1.6キ
ロ）以上歩いてクッキーを届けて
くれたと聞きました。

「あなたとお母さんのことを考
えていたら、何かしなくちゃ、
と思ったの。それだけよ」と、
言ってくれたそうですね。

訪問教師としての召しを献身的
に果たしているあなたに、わた
しがどれほど感謝しているかを
伝えることができたら、と思
います。あなたは、ノーブー
の時代以来、愛と靈感による
家庭訪問を通して仕え合っ
てきた女性の典型です。あ
まり活発でない義理の娘
を愛をもって訪問してきた
あなたは、奉仕と愛の模範
です。

ありがとうございます。■



十二使徒定員会
L・トム・
ペリー長老
(1922 - 2015年)

この記事は、2015年5月28日、亡くなる2日前にL・トム・ペリー長老が若い神権者のために用意したものです。

わたしの生涯で最大の力となってきたのは神の神権です。それは若い男性の皆さんにとってもしっかりとした錨となることでしょう。しかし、神権が皆さんの生活で力を発揮するには、その力を理解し、活用する必要があります。

神権にまつわる幼い頃の経験

わたしはユタ州ローガンの快適な環境で育ちました。食べ物や住まい、また教育に関して、何の心配も要らない子供時代を送りました。しかし、おそらく生活が楽だった分、心のよりどころとなり、しっかりとつかまっていることのできる錨が必要でした。

わたしにとって、その錨は神の神権でした。わたしは子供の頃から珍しい状況を経験しました。父は、わたしが1歳のときにビショップに召され、それから19年にわたってわたしのビショップだったのです。父親として与えてくれた霊的な導きから、計り知れないほどの助けを受けました。

12歳の誕生日にアロン神権を受けるのが楽しみだったのも、そのことが一番の理由だと思います。聖任される

神権 —— しっかりした錨

とき、わたしの頭に父の手が置かれるのを感じたあの特別な日を今でも覚えています。その後、わたしはアロン神権の職を一つずつ昇進し、数々の召しを受け、大きな喜びを感じました。

聖餐を配るときには、本当に特別な気持ちを感じました。主の肉と血の記念を受け、主に従い、主の戒めを守ろうと決意する人々を^ま目の当たりにすることができるのです。

神権について理解しながら成長する

時の経過とともに、わたしは高校を卒業し、大学で1年学んだ後、伝道に召されました。わたしは伝道期間中の一瞬一瞬を楽しみ、また同僚を愛しました。特に一人の同僚はわたしに大きな影響を与えました。宣教師としての責任とともに果たす中で、この同僚からたくさんのことを学びました。

戦時中だったので、伝道から帰還後、合衆国海兵隊に入隊しました。終戦後、わたしは大学に戻り、結婚し、家庭を持ちました。仕事上の移動の関係で、合衆国の各地に引っ越しをし、数多くの神権の召しを受けて奉仕し、多くのことを学びました。ようやくマサチューセッツ州ボストンに落ち着き、そこでステーキ会長を務めました。その召しを受けていたときに、わたしは十二使徒補助に召され、それか

ら17か月して、十二使徒定員会に召されました。

使徒として学んだ教訓

十二使徒定員会会員として、わたしは何を学んだでしょうか。

神権には、導き、錨、そして守りがあると分かりました。

神権は常に存在してきました。アダムは、この地上に来る前から、この神権を持っていました。神権を持つアダムの子孫が各地に散らばったとき、神権を組織的に管理する必要が生じました。そのために、主はアブラハムに家族の中の神権者を管理するよう命じられました。この組織は、イサクと、後にイスラエルと名前を変えたヤコブ





の管理の下、存在し続けました。

何世紀もたつて、イスラエルの子らは、捕らわれの身となりました。主は、彼らを解放するためにモーセを遣わされましたが、そのとき一つの民として、メルキゼデク神権を受ける備えができていないことが分かりました。そのため、救い主の時が来るまで、彼らはアロン神権を受けるにとどまることとなりました。

救い主は、仕え、教え、導く業に着手されたとき、その業の最初にきわめて興味深いことをされました。メルキゼデク神権を組織されたのです。十二使徒を召し、律法と神権の位を教えられました。ペテロを第一の使徒として召し、教会における権能の系譜を確立されました。当時も、また今日においても、教会を管理する第一の使徒

を選ばれるのはイエス・キリストです。また、その使徒を神権の義務において導かれるのは救い主です。

ですから、神権は主なる救い主から第一の使徒、第一の使徒からその他の使徒、さらにはその他の使徒からその他の神権者というふうに、直線でつながっているのです。権能の鍵は使徒に与えられ、それらの鍵がこの地上に存在する限り、わたしたちは主御自身から導きを受けることができるのです。この神聖な導きは、わたしたちを守り、教会はこれからも真理から逸脱することはないという確信を与えてくれます。この導きは一貫しています。なぜなら、この導きを与えておられる御方が、この地上に属する御方ではないからです。主によって導かれているのです。

神権の教義を学ぶ

これは、わたしから若い男性の皆さんへの最大の助言です。神権の教義を研究し、神権を行使するときに発揮される自分の力を理解し、神権がどのように皆さんや人々の生活を祝福してくれるかを学んでください。

皆さんが神権の教義を学び、神権の務めを果たすならば、神権は、皆さんにとって必ずやしっかりした錨となり、霊的な危険から守り、大きな喜びを与えてくれると約束します。真の神権定員会を築いてください。友人たちに手を差し伸べ、彼らを定員会に導き入れてください。定員会の中に兄弟愛を育ててください。その愛は、皆さんの人生を支える永遠の土台となることでしょう。■

ロナルド・A・ラズバンド 長老

才能豊かな指導者、 献身的な父親

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老

ロン（訳注——ロナルドの愛称）・ラズバンドは、自分が専任宣教師として奉仕することに疑いを抱いたことはありませんでした。19歳の彼が伝道の召しの手紙を開けると、唯一抱いていた疑問は、自分がどこで伝道するかということでした。

「父はドイツへ伝道に行き、兄もドイツへ伝道に行きました。後の義理の兄もドイツへ伝道に行きました。ですから自分もドイツに行くと思っていました」とラズバンド長老は語ります。

しかし、主は別の計画をお持ちでした。ロンはドイツではなく、ニューヨーク・シティーに本部を持つ、アメリカ合衆国東部諸州伝道部に召されたのでした。落胆した彼は、召しの手紙を手に寝室に行き、ベッドの脇にひざまずいて祈りました。何気なしに聖典を開いて読み始めると、そこにはこう書いてありました。

「見よ、見よ、この場所に、また周りの地域に、わたしの民が大勢いる。この東の地における周りの地域で、効果的な門が開かれるであろう。

それゆえ、主なるわたしは、あなたがたがこの場所に来るのを許した。わたしは人々の救いのためにこれを必要としたからである。」（教義と聖約 100:3-4, 強調付加）

ロンはすぐに、東部諸州伝道部への召しは間違いではなかったという、聖霊からの確認を受けました。

「落胆していたわたしは、ここが主がわたしに行くように望んでおられる地であるという



確信を、初めて聖句から得ました。その後も同じ証を何度も受けたのです。」ラズバンド長老は回想して語ります。「それは、わたしの中核を形作る霊的な経験となりました。」

東部諸州への伝道は、教会の召しを受けて思いも寄らない場所に行くという最初の経験となり、その後もそのような経験を何度もしました。教師、ビショップ、高等評議員、伝道部会長、七十人、七十人定員会先任会長、主イエス・キリストの使徒、それぞれの召しにあって、ロナルド・A・ラズバンド長老は、主の御心を受け入れ、神の子供たちに仕えるために主の御霊に頼り続けました。

右上——
伝道部会長時代の
ロナルド・A・ラズバンド、
ニューヨーク・シティー、1998年。
右端——
ロナルド・A・ラズバンド、
姉のナンシー・シンドラー、母親、
兄のラッセルとニールとともに。
右——
7歳のとき、両親とともに。



面があったことも自分でも認めています。

「〔初等協会の〕教師が、ステーキの初等協会会長として奉仕していた母に、『ロニー・ラズバンドは手のかかる男の子です』と報告に行ったのは、2、3回では済まされなかった」と彼は言います。「でも、彼らはわたしのことを決して投げ出さないでくれました。わたしに大きな愛を示し、いつもクラスに戻るよう招いてくれました。」²

ロンの子供時代には常に教会がありました。ワードの集会やワードのパーティー、ワードの食事会、ワードのスポーツチームなどです。コットンウッド第1ワードの集会所で忙しくしていないときには、珍しい仕事やスカウト活動をしていたり、友達と時間を過ごしていたりしました。家庭では、聖文やゲーム、家の仕事に家族の時間を費やしました。

「父はわたしに、模範を通して仕事とは何かを教えてくださいました」とロンは言います。「母は、わたしに仕事をさせることで、仕事について教えてくださいました。」

ロンの父親はパンの配達トラックを運転し、毎朝4時に起きて、毎晩遅くに家に帰りました。母親は家において子育てをしながら、家計を助けるために、陶器のレースドール（人形）を作って売っていました。

ロンが生来持っている、指導し、委任し、物事を成し遂げる能力は、早い時期から発揮され、後に仕事でも教会の責任においても、大いに役立ちました。

「ロンは芝刈りをするように言われて

善い両親から生まれた

イエス・キリストの使徒としての最初の説教で、ラズバンド長老は先祖に対する心からの感謝を表し、こう語りました。「わたしは福音を信じる善い両親から生まれました。そして、先祖も6代にわたって、善い両親から生まれました。」¹

彼の母親、ベドラ・アンダーソン・ラズバンドは、愛に満ちた導き手であり、幼いロンの心に聖文を愛する心を育んでくれました。父親のルーロン・ホーキンス・ラズバンドは、忠実な神権者であり、勤勉に働く徳を模範によって示しました。

1951年2月6日、アメリカ合衆国ソルトレーク・シティーで生まれたロナルド・A（アンダーソン）・ラズバンドは、この父と母の間に生まれた唯一の子供でした。両親はどちらも以前結婚し、離婚していて、ロンは兄二人と姉一人とともに育ちました。

「ロンは、父と母の両方の特質を持っています。ですから、わたしたちは皆彼を愛しています」と姉のナンシー・シンドラーは語ります。「ロンは、父や母が彼を二人の間に挟まずに並んで立ったり、二人で座ったりするのを決してよしとしませんでした。」

ロンは普段はいい子でしたが、いたずらな





いました」と姉は語ります。しかし、ロンはマーク・トウェインの書いた物語の主人公、トム・ソーヤーのように、友達を説得して手伝わせてしまう術すべを身につけていたのです。

「外を見ると、ロンの親友が、ロンの代わりに芝刈りをしていました」とナンシーは語ります。「翌週は、また別の友達が芝刈りをしていました。ロンはといえば、友達が自分の仕事をしている間、玄関ポーチに座って、友達と冗談を言って笑っているのです。」

ロンの両親は経済的に苦労しましたが、家族には福音がありました。「お金がふんだんにあったことはありません」とロンは回想します。「でも、そのために幸せでなかったことはありません。」

信頼できる友人や指導者

成長する中で、ロンは善い友人たちや信頼のおける神権指導者に恵まれました。その中に、ロンが幼い頃から14年間にわたってステーキ会長を務め、後に十二使徒定員会や大管長会で奉仕した、ジェームズ・E・ファウスト管長（1920 - 2007年）がいました。ロンの家族はファウスト管長やその家族と親しくし、その交流を楽しみました。「ファウスト管長はいつもわたしのことを、コットンウッドの少年と呼んでくれました。わたしの成長を助けてくれたからです」と語ります。

高校に進学したロンには、学校でスポーツに興じる時間はありませんでした。いつも仕事があったからです。でも、それから一生続

くことになる、かけがえのない友情を大切に育む時間は取りました。

「もちろん彼は完全ではありませんでしたが、わたしはいつも、ありのままのロンを尊敬していました」と子供時代からの友人であるクレグ・マクレアリーは語ります。クレグは笑顔でこう付け加えます。「わたしは彼にこう言ったことがあります。もしも君が天国に行くなら、ほくも行くだろうね。ほくらは同じことをして育ったのだから」と。

ロンは1970年初頭に伝道に出ましたが、クレグは秋の狩りの季節が終わるまで、伝道に出るのを引き延ばそうと考えていました。そのとき、伝道中のロンから電話がありました。

「ロンがどうやって電話する許可をもらったかは分かりませんが、わたしは彼から、すぐに伝道に出ないことを叱られました」とマクレアリー兄弟は語ります。「もちろん、それ以上引き延ばすことはやめました。」

ロンは伝道を「実にすばらしい経験」と呼びます。「主はわたしに、多くの奇跡的で、信仰を高める経験をさせてくださいました」とロンは言います。「伝道は、わたしの霊的な生活にとっても大きな影響を与えました。」

ロンは、伝道中、バミューダ諸島でも奉仕しました。

結婚当初から、ラズバンド長老姉妹は主を第一に置いた。1973年9月4日に結婚した二人（下）は、4人の娘と1人の息子をもうけた（上）。右ページ——ラズバンド長老の以前のビジネスパートナーでもあり、助言者でもあるジョン・ハンツマン・シニア氏は、ラズバンド長老を「誠実さにあふれる才能豊かな指導者」と呼ぶ。



彼の伝道部会長であったハロルド・ニーファイ・ウィルキンソン会長がその地域に行かせたのは、「まじめで誠実な宣教師」だけでした。なぜなら、伝道部会長はごくまれにしか訪問できないからです。

「わたしたちは、完全に自分自身に任されていました。でも、伝道部会長は何も心配する必要がありませんでした」とロンは回想して語ります。「わたしたちはなすべきことを行いました。」

デルタ・ファイの「夢の少女」

1972年に伝道を終えたロンは、仕事を見つけ、その年の秋にユタ大学に入り、帰還宣教師の組織である「デルタ・ファイ・カップ」に加わりました。組織の社交活動で、メラニー・トゥイッチェルという名の魅力的な若い女性に目を奪われました。メラニーは「デルタ・ファイ」で「夢の少女」に選ばれた一人で、組織の奉仕活動を手伝っていました。

ロンと同じように、メラニーも活発な末日聖徒の家庭で生まれ育ちました。父は職業軍人であり、軍の幹部でしたが、どんなに引っ越しを繰り返しても、母は家族がそれを言い訳に教会を休むことは許可しませんでした。

メラニーはロンの優しさや思いやり、その福音の知識に感銘を受けました。「わたしは自分にこう言い聞かせました。『彼はすごく特別な人だから、彼とデートできなくても気にしない。ただ、親友になりたいわ』と。」

二人の関係が強められるにつれて、ロンに対する自分の思いや主に対するロンの献身について、メラニーは御霊の確認を受けました。やがて二人の友情は花開き、メラニーの言葉によれば、「物語やおとぎ話のようなロマンス」へと変化していきました。

ラズバンド長老は、彼女は完全なパートナーだと言います。「メラニーは福音に対する献身と、福音からの受け継ぎに関して、あらゆる点でわたしの分身のようでした。わたしたちは親友になりました。そして、そのとき、わたしは彼女に結婚を申し込みました。」

1973年9月4日、二人はソルトレーク神殿で結婚しました。そのとき以来、「献身的な永遠の伴侶〔は〕陶器師が粘土に手を加えて、器の形を整えるように、わたしがより良いイエス・キリストの弟子になるのを助けてくれました。妻と5人の子供たちとその伴侶、24人の孫の愛と支えがわたしの力となっています。」³

「行きましょう」

既婚の学生ワードの長老定員会会長として奉仕していたとき、ロンは、高等評議員アドバイザーだったジョン・ハンツ

マン・シニアと知り合いました。ジョンはすぐにも、ロンが定員会を導く様子に感銘を受けました。

「彼にはすばらしい指導力と組織する能力がありました」と、ハンツマン長老は回想して語ります。長老は1996年から2011年まで地域七十人として奉仕しました。「まだ大学生の若い彼が、そのような方法で定員会を導くことができるのは、尋常ではないと思いました。」

ジョンはその後数か月にわたり、ロンが思いついた考えを行動に移しながら神権の責務を果たしていく様子を観察しました。後にハンツマン・ケミカル・コーポレーションとなったジョンの会社で、シニア・マーケティングの職に空きができたとき、ジョンはロンこそ自分が求めるスキルを持っている人材だという結論を出し、彼に仕事を打診しました。その仕事は、翌週からアメリカ合衆国オハイオ州で始まるというものでした。

ロンは当時を回想してこう語ります。「わたしはメラニーにこう言いました。『自分は学校を中退して引っ越すつもりはない。これまでずっと、大学を卒業しようと努力してきたし、今やその目標は達成目前なのだから。』」

メラニーはロンに、良い仕事を見つけることこそ、学校に通っている理由であることを思い起こすように言いました。

「何を心配しているの。」メラニーが尋ねました。「わたしなら、荷造りや引っ越しのやり方は分かっているわ。今までずっとしてきたことだから。」

お母さんには、毎晩電話すればいいでしょう。行きましょう。」

ジョンがロンに対して抱いた信頼は、そのとおりに証明されました。ジョンの導きによって、ロンは瞬く間に社内で頭角を表し、1986年には社長兼最高執行責任者に就任しました。彼は会社のために精力的に国内外への出張を重ねました。どんなに忙しいスケジュールをこなしていても、ロンは週末を家で過ごそうと努力しました。出張に、家族を連れて行くこともありました。

「主人は、家にいるときには、子供たちが本当に自分は特別で愛されている存在であることを感じられるようにしてくれました」とメラニーは言います。できる限り子供たちの活動やスポーツ行事にも顔を見せました。4人の娘の一人であ





るジェネッサ・マクファーソンは、父親が日曜日に教会の責任のために教会の集会で家族と座れないことが多かったことについてこう語っています。

「教会で誰が父の隣に座るかで、よくもめたものです。なぜって、父が教会で一緒にいてくれるのは、貴重なことだったからです。自分の手を父の手に重ねて、こう考えていたのを覚えています。『もしも父のようになれば、きっと救い主のようになるのに正しい道を歩いているということだわ』と。父はわたしのヒーローでした。」

夫妻の息子であるクリスチャンは、「父と息子の時間」を過ごした懐かしい思い出を回想してこう語ります。何度も引っ越しをしたので、新しい友達との出会いと別れが続きました。「でも、父は常にわたしの親友でした」し、ライバルでもありました。

クリスチャンとバスケットのシュートをするときも、娘たちとボードゲームをするときも、家族や友人と釣りをするときも、ロンは勝つのが大好きでした。

「まだみんな小さい頃、父は決して誰にも勝たせませんでした」とクリスチャンは言います。「みんな、本気でやらなければならなかったもので、おかげで上達しました。その伝統は彼の愛する孫たちにも受け継がれています。」

何年にもわたり、ロンの家族はロンが教会の指導者として教導の業を果たすとき、愛や思いやりを示し、御霊の思いを表現し、人々が最善を尽くせるように励ますロンの能力が大

いに発揮されるのを目の当たりにしてきました。ロンとメラニーの孫、パクストンが生まれてから、家族はロンの霊的な強さと助けにひたすら頼りました。

パクストンは、まれな遺伝子の障がいがある状態で生まれたため、多くの健康上の問題が起こるたび、家族は肉体的にも感情的にも霊的にも試しを受けました。ラズバンド長老は、パクストンの誕生から始まった旅路を「永遠に関わる特別な教訓を得る試練」と呼びました。⁴

パクストンが地上で過ごした短い3年間、多くの疑問に対して答えはほとんど得られない中で、ラズバンド長老は霊的な柱として、イエス・キリストの^{あがな}贖いの力を受けるように、家族を導きました。

新しい召しの発表を聞いたとき、家族や友人の幾人かは、驚きませんでした。「父が使徒として支持を受けるとき、わたしたちは彼のことを一番よく知っている者として、一番高き手を挙げました」とクリスチャンは語ります。

「わたしは行って仕えます」

1996年、ロンが45歳で仕事も絶好調のときに、ニューヨーク州ニューヨーク北伝道部の伝道部会長としての召しを受けました。昔の使徒と同じように、彼は「すぐに網を捨て」



左上——ラズバンド長老姉妹とインドのニューデリーの会員たち、2015年11月；上から——ニューヨーク・シティで伝道部会長として奉仕していたときのラズバンド長老姉妹、1996-1999年；家族に「永遠にかかわる特別な教訓を得る試練」を教えてくれた孫のパクストンとともに；カリフォルニア州サクラメント神殿の定礎式で。

ました(マタイ4:20)。

「召しを受けるのに、1マイクロ秒しかかかりませんでした」とラズバンド長老は言います。彼は主にこう言いました。「主がわたしに行って仕えるようにお望みなら、わたしは行って仕えます。」

ロンは仕事上の経験から、偉大な教訓を学びました。「人は何にも増して大切です。」⁵ その知識と、磨かれた指導力を備えた彼は、主の王国でフルタイムで奉仕をする準備ができていました。

ニューヨークでの伝道活動を始めたロンとメラニーは、その業が難しいながらも、活力にあふれたものであることを知りました。ロンはすぐにも宣教師たちに責任を委ねました。そうすることで、彼らの忠実さを引き出し、教え、人格を築き、高めていったのです。

ロンとメラニーが伝道を終えてわずか8か月後の2000年に、ロンは七十人として召されました。その責任を果たす中で、それまでの備え、経験、数々の才能が教会の益となりました。七十人の一人として、ヨーロッパ中央地域会長会の顧問として奉仕し、39か国における主の業を管理しました。40年以上前に大学を後にした彼は、なおも熱心な学生であり続けました。北アメリカ西部地域と北西部地域、ユタ州の3つの地域を管理し、神殿部の管理ディレクターとして奉仕し、七十人会長会で奉仕し、十二使徒の間近で働く中で、先輩の兄弟たちから積極的に教えを受けてきました。

最近、ラズバンド長老はそれについてこう語りました。「十二使徒の最も小さい者として、あらゆる方法であらゆる機会を通して他の使徒の皆さんから学ぶことは、何と光栄なことであり、特権でしょうか。」⁶

「彼らが知っていたことを、わたしも知っています」

ラズバンド長老のオフィスの壁には、2枚の絵が飾ってあります。1枚は、1850年代にデンマークで、ある家族に教えを説いているモルモンの宣教師の絵です。もう1枚は、初期の宣教師であったダン・ジョーンズがイギリス諸島で井戸の淵ふちに立って教えを説いている絵です。これらの絵(右上)を見るたびに、ラズバンド長老は自分自身の先祖を思い出します。

「初期の開拓者たちは全てをささげてイエス・キリストの福音に生き、従うべき伝統を子孫に残しました」と長老は証しています。⁷ 試練や迫害に遭ってもラズバンド長老の先祖たちを前進させた理由は、ラズバンド長老が新しい召しにふさわしい最大の理由でもあります。それは、主と主の業に関する知識と、確かな証です。

「新しい召しにあって、学ぶべきことは本当にたくさんあります」と長老は語ります。「それに関して、とても謙遜な気



持ちを抱えています。でも、この召しを受けて、わたしにできることがあります。それは、『全世界にお〔いて〕、キリストの名』を証することです(教義と聖約107:23)。イエスは生きておられます。」⁸

長老は、開拓者のひ孫としてこう付け加えています。「わたしは、彼らを感じたことを感じています。彼らが知っていたことを知っています。」⁹

彼らが子孫に望んだことは、ロナルド・A・ラズバンド長老の人生や教え、奉仕に具現化されています。ラズバンド長老は先祖の模範に従い、彼らの受け継ぎを尊びながら、主の特別な証人の一人として前進しています。■

注

1. ロナルド・A・ラズバンド「主イエスの愛に、ただ驚く!」『リアホナ』2015年11月号、89
2. ロナルド・A・ラズバンド、「Friend to Friend: Golden Nuggets,」*Friend*, 2002年10月号、8
3. ロナルド・A・ラズバンド「主イエスの愛に、ただ驚く」89
4. ロナルド・A・ラズバンド「特別な教え」『リアホナ』2012年5月号、80
5. ロナルド・A・ラズバンド、記者会見、2015年10月3日
6. ロナルド・A・ラズバンド、証、神権と家族部ディボーションナル、2015年12月1日
7. ロナルド・A・ラズバンド「主イエスの愛に、ただ驚く」89
8. ロナルド・A・ラズバンド、証
9. ロナルド・A・ラズバンド、開拓者記念日説教、タバナクル、ソルトレーク・シティー、2007年7月24日

何年も前、わたしは教会にあまり行っていませんでしたので、当時のわたしを知っていたある会員は、わたしがビショップに召されたことが信じられなかったようです。

パトリック・J・クロニン 3 世

ある神権役員会で、専任宣教師がある会員と会ったことを報告しましたが、その会員の記録はワードにありませんでした。わたしはその人の名前を聞くとすぐに思い出し、昔その姉妹と同じワードに集っていたと言いました。

宣教師の一人がこう言いました。「そうです。彼女も同じことを言って、あなたがビショップだと聞いてかなり驚いたようでした。」

わたしは宣教師に、「何か言っていましたか」と尋ねました。

宣教師たちは、その姉妹が非常に驚いた様子で「彼がビショップですって?」と言ったと話してくれました。

わたしは思わず笑って、その姉妹が知っている 30 年前のわたしは、今とまったく違う人間だったと説明しました。

後でこの出来事について思い巡らしながら、わたしと家族が教会に入ってから 30 年余りの間に人生がどれほど変わったかについて考えました。わたしはワードの多くの会員を 20 年来知っていて、支部会長やビショップとして奉仕してきました。しかし、30 年前のわたしを知っている会員は一人もいません。悔い改めやイエス・キリストの贖罪^{しよくざい}について教えるために、折に触れてわたしの過去について話すこともありましたが、しかし、ワードのほとんどの会員は、わたしの教会

員生活がどれほど波乱に満ちていたかは知りませんでした。

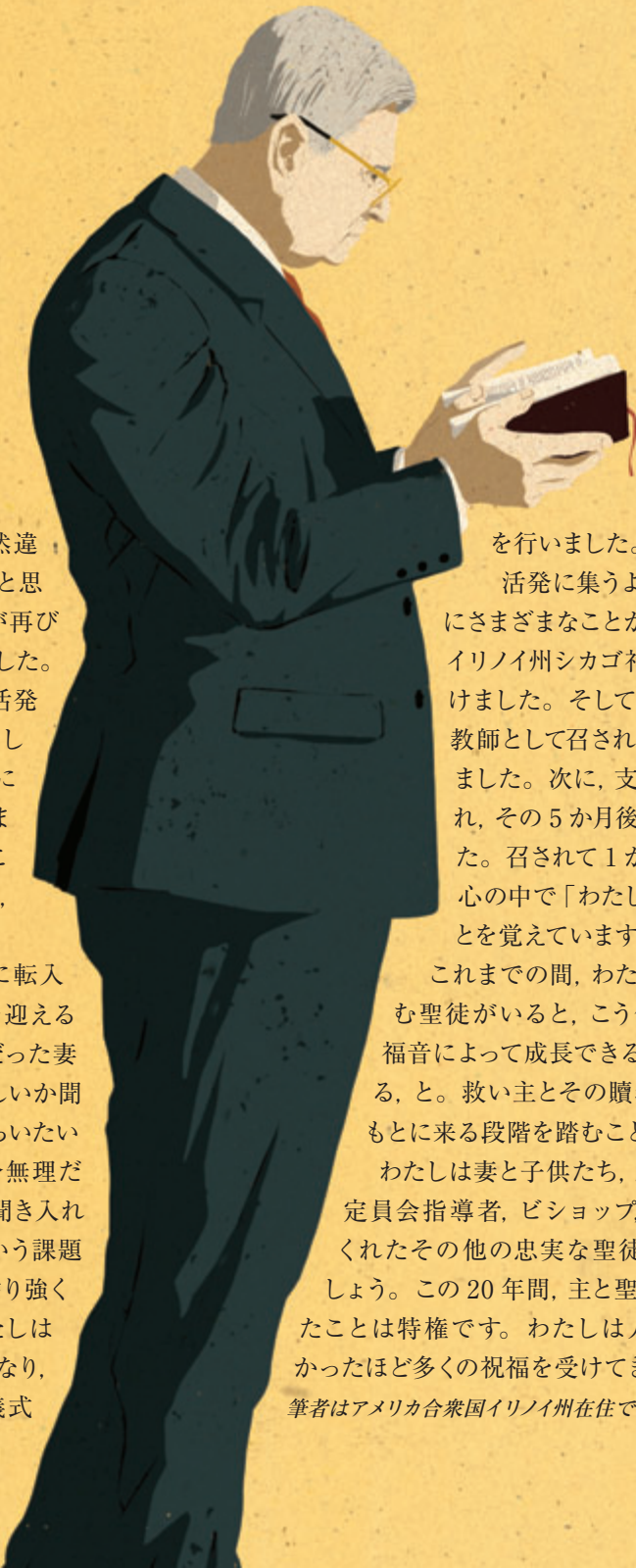
わたしと家族は 1979 年 5 月に教会を知り、この教会が自分たちの居場所だと直感しました。6 月に家族でバプテスマを受けて、初めは全員活発に集っていましたが、間もなくわたしは教会に行かなくなり、昔の習慣に戻ってしまいました。福音や回復の業が真実であることについて疑問はまったくありませんでした。しかし、良い教会員となる素質は自分にはないと思っていました。

1982 年、わたしが過度の飲酒を続けていたので、信仰を守り続けた妻は離婚の手続きを始めました。当時、家族はアメリカ合衆国オクラホマ州に住んでいましたが、わたしは故郷のイリノイ州に戻っていました。わたしは唯一の宝である家族を失うところまで来ていました。

わたしは毎朝毎晩、神にひざまずいて祈るようになりました。神が存在するかどうかもはや確信はありません。たとえ存在するとしても、わたしのことなどとっくの昔に忘れてしまわれたらと思うようになりました。それでも、3 か月間、誠実に祈り続けました。ある早朝、熱心に祈っていると、深い安心感に包まれました。神が生きておられ、わたしを御存じで、わたしを愛しておられることが分かりました。もうアルコールは一滴も飲まないと決心しました。

その夜、妻から電話があり、離婚届を郵送するので署名してほしいと言われました。話しているさなか、妻が突然こう言

彼が ビショップですって？



い出しました。「あなた、いつもと全然違うわ。あなたは二度とお酒を飲まないと思うの。この紙は破いておくわ。」家族が再び一つとなり、2年後、妻は三男を産みました。

人はわたしがこの後教会に完全に活発になったと思うでしょう。しかし、わたしはかたくなでした。しばらくの間教会に戻り、長老定員会の教師の召しも受けました。ところがすぐに、自分は教えることにふさわしくないと感じるようになり、またしても教会に集わなくなりました。

1991年、わたしたちは小さな支部に転入しました。末の息子が8歳の誕生日を迎える数か月前のことです。初等協会会長だった妻は息子に、誰にバプテスマを施してほしいか聞きました。当然ながら父親に施してもらいたいと彼は言いました。妻は、それは多分無理だわ、と答えました。息子はその言葉を聞き入れず、父親が活発に集えるようにするという課題に取り組み始めました。彼はかなり粘り強く働きかけてきました。程なくして、わたしはスカウトマスターとして奉仕するようになり、その後、息子のバプテスマと確認の儀式

を行いました。

活発に集うようになってから8か月の間にさまざまなことがありました。わたしたちはイリノイ州シカゴ神殿で家族の結び固めを受けました。そして、わたしは再び長老定員会教師として召され、今度は最後までやり遂げました。次に、支部会長会の顧問として召され、その5か月後には支部会長に召されました。召されて1か月ほどたった頃、わたしは心の中で「わたしが支部会長？」と思ったことを覚えています。

これまでの間、わたしはさまざまな問題に苦しむ聖徒がいて、こう伝えてきました。わたしが福音によって成長できるのだから、誰にだってできる、と。救い主とその贖罪の真の力を理解し、主のもとに来る段階を踏むことが大切なのです。

わたしは妻と子供たち、忠実なホームティーチャー、定員会指導者、ビショップ、すばらしい模範を示してくれたその他の忠実な聖徒に永遠に感謝し続けるでしょう。この20年間、主と聖徒たちに仕えることができたことは特権です。わたしは人生の中で、夢にも思わなかったほど多くの祝福を受けてきました。■

筆者はアメリカ合衆国イリノイ州在住です。

聖典の翻訳——

わたしたちの心の 言語に

聖典を英語から他の言語に翻訳する業に携わってきた人たちは、次のようなことを経験してよく知っています。それは何度となく起こっているのです。

一人の若いアルメニア人が、自分の言語に翻訳されたばかりのモルモン書を手に持ち、その翻訳を手伝ったチームの一員のところへ行き、こう言っています。「ありがとうございます。これまでにモルモン書を英語で読みました。ロシア語でもモルモン書を読み、ウクライナ語でも読みました。でも、アルメニア語で読めるようになるまで、本当には理解できませんでした。アルメニア語で読んだときに、ようやく分かりました。まるで家に帰ったような気持ちでした。」

家に帰る

イエス・キリストの福音が霊的な家であるとすれば、当然のことながら、心地良く、また身近に感じます。家で、わたしたちは休息します。栄養を取ります。幼い頃に学んだ言語で愛する人たちと話をします。これはわたしたちの心の言語です。そして、心は福音が届く必要のある所であるため、わたしたちの心の言語で聖典を読むことが非常に大切なのです。

教義と聖約はそのことを示唆しています。主は次のように啓示しておられます。大管長会が持っている神権の鍵によって、「もろもろの国民……に、彼らの救いの福音を確信させるため、主の腕が力をもって現される……」。

その日には、イエス・キリストを啓示するために注がれる慰め主の働きによって、

数多くの経験から、
聖典翻訳の業に主の手があることは明らかです。

教会機関誌
R・バル・ジョンソン





わたしたちの
母国語—
心の言語で
聖典を読むときに、
人はもっと強く
感動を覚えます。



**89の言語で
モルモン書の全編が出版されており、
別に21の言語で
抜粋が翻訳されています。**

この力を有する職に聖任される者たちを通じて、すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであらう。」(教義と聖約 90:10-11)

教会本部で聖典翻訳チームに関わる業務を行っていたジム・ジュエル兄弟は、心の言語に翻訳されたときに聖典がどれほど身近なものになるかについて次のように述べています。

「アフリカの国レソトで話されている言語のセト語にモルモン書を翻訳するに当たって、翻訳チームの訳文を評価するのを助けてくれる人を見つける必要がありました。プロジェクト・スーパーバイザーのラリー・フォーリー兄弟は、ユタ州立大学の大学院生であったレソト出身の教会員を見つけました。レソトでの教育は英語で行われます。それで、この女性もその子供たちも小学1年生のときから英語で勉強してきましたが、家庭ではセト語を話していました。

彼女は翻訳に関わる仕事を引き受けることにしました。わたしたちが送った章に対する彼女の評価は、実に有益でした。わたしたちは言葉遣いと言語構造について頻繁に具体的な質問をし、それに対して彼女は有益な説明をしてくれました。ところが、わたしたちは、質問とは無関係の多くの節が黄色に塗られているのに気づきました。黄色に塗られている節について尋ねたところ、彼女はこう答えました。『ええ、心に深い感動を覚えた節で、かつて英語で十分に理解できなかった箇所です。自分の子供たちに伝えることができるように、色を塗ったのです。』」

聖典の翻訳の手本

聖書の翻訳には、長い興味深い歴史があります。それは旧約聖書の一部がヘブライ語からギリシャ語に翻訳されたことに始まります。後に、聖書はギリシャ語からラテン語に、そしてラテン語とヘブライ語とギリシャ語から多くの言語に翻訳されました。¹ そのため、末日聖徒イエス・キリスト教会は、聖書については別の言語に翻訳するのではなく、その言語を話す

クリスチャンが信頼できるものとして既に受け入れている訳本を用いています。²

そのために、教会が行う聖典の翻訳作業のほとんどは、モルモン書(末日聖典の中で最初に翻訳される)、教義と聖約、高価な真珠を対象としています。これらの書を翻訳する基の言語は英語です。英語は預言者ジョセフ・スミスがこれらを公にした言語であり、彼の心の言語でした。

**「この力を有する職に聖任される者たちを通じて、
すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであらう。」
(教義と聖約 90:11)**



聖典の 翻訳のプロセス

1

翻訳の承認

- 特定の言語を話す教会員の数が増加しており、教会の基本資料が既にその言語で翻訳されている場合、地域会長会が聖典の翻訳を要請する。
- 要請は、十二使徒定員会と大管長会の会員を含む教会本部の幾つかの委員会で検討される。

翻訳の段階

導入段階:

- 教会で使用するために既存の聖書が選定される。
- 最初に次の基本資料が翻訳される。『福音の基礎』(基本的な教義、教会名、^{せいさん}聖餐の祈り、バプテスマの祈り、信仰箇条を含む)、『預言者ジョセフ・スミス^{あかし}の証』パンフレット、LDS.org のウェブページ。
- 総大会の話もその言語で通訳されることがある。

段階 1:

- モルモン書、教義と聖約、高価な真珠(約 10 年間)。
- 『家族——世界への宣言』『生けるキリスト——使徒たちの証』、賛美歌の抜粋、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』などの基本テキスト。



教会歴史を学ぶ人は、聖典を英語以外の言語に翻訳するために用いられるプロセスをよく知っているに違いありません。それは預言者ジョセフ・スミスがモルモン書を英語に翻訳する際に用いたプロセスとほぼ同じです。

ジョセフ・スミスは、謙虚な、教育をほとんど受けていない農家の少年でした。しかし、なすべき業のために主が必要とされた資質と潜在力を備えていました。実に、ジョセフとその家族は、まさしくこの業を行うために備えられ、ふさわしい場所に置かれたのです。³

またジョセフは、ニーファイ人の記録を翻訳するに当たって、神と人の両方から助けを受けました。記録を受け取れるようになるまで、4年にわたって毎年、天使モロナイがジョセフのもとを訪れました。モロナイが預言者に教えた全てをわたしたちは知っているわけではありませんが、モロナイの訪れが、御業を進める前に預言者を霊的かつ知的に備えるものであったことは明らかです。⁴

主はまた、消滅した言語を翻訳する手段として、前もって「解訳器」も用意されました。この解訳器は金属製の枠に取り付けられた二つの透き通った石であると述べられています。預言者ジョセフは、この解訳器や聖見者の石と呼ばれた同様の用具の助けを得て、ニーファイ人の記録を英語に翻訳しました。預言者はそのプロセスを詳しく述べてはおらず、「神の賜^{たま}物と力」によってモルモン書を翻訳したとだけ証^{あかし}しています。⁵

神の助けのほかに、ジョセフは、筆

記者という形で人からも助けを受けました。筆記者たちは翻訳を書き取って原稿を作成し、また別の人々が活字に組み、印刷し、費用を支払い、世の人々に配布しました。

ジョセフが翻訳の業のために備えられ、助けを受けたと同じように、今日聖典を翻訳する務めを託される人々も、主によって備えられ、神と人の両方からその業における助けを受けます。

啓示による業

厳しい翻訳プロセスを鼓舞するのは霊的なエネルギーであり、これは「評議会による啓示」と呼ぶのがおそらく最もふさわしいでしょう。翻訳チームとして選ばれる 2 人または 3 人が、他の人たちと協力してその業を行います。彼らには、教会本部のスーパーバイザーや地元の校閲者がおり、参照用のレキシコン⁶ (語彙集) や翻訳ガイド、コンピュータープログラム、宗務サポートがあります。宗務サポートには、大管長会に至るまで幅広い人々が含まれます(チャート「聖典の翻訳のプロセス」参照)。大管長会が翻訳の最終承認を下すと、原稿は活字に組み、印刷され、配布されます。デジタル形式で作成されると、LDS.org や福音ライブラリー(アプリケーション)にも掲載されます。

この共同作業は、熱意と靈感の両方によって進められます。内容の質と発行される物理的体裁の質に十分に注意が払われます。翻訳を行うことについては多くのレベル、特に宗務レベルで検討され、宗務レベルが主の



承認を求めます。その承認が下されて初めて、翻訳が開始されます。預言者ジョセフ・スミスがモルモン書を翻訳した方法の詳細は明らかになっていません。しかし、翻訳のプロセスが主によって——主の賜物によって、また主の力によって——導かれることは確かです。

だからといって、翻訳は最初に完了した時点で完全だということではありません。しばしば、時間を掛けてさらに聖典を研究しながら見直しを行い、文法と語彙の改善を提案したり、活字の組版やつづりの間違いを見つけたことがあります。まれに、教義を明確にするために変更が加えられることもあります。こうしたことは、大管長会の指導の下で行われます。

主が与えてくださる

主はさらに他の方法でもこの翻訳を支援されます。必要が生じた場合には主が与えてくださると、教会本部の翻訳チームはよく言っています。

多くの事例の一つとして次のようなことがありました。教会資料のママ語（グアテマラで使われているマヤ系言語）の翻訳と録音のために翻訳者が必要でした。グアテマラに召された最初の宣教師の中に、祖父がママ語を話していた長老がいました。その宣教師は都会育ちで、スペイン語しか話せませんでした。しかし、毎晩、祖父が夢で彼のもとに来て、ママ語を教えたのです。この若い長老は、教会における、ママ語翻訳の第一人者となりました。

多くの場合、翻訳の業は個人が大き

な犠牲を払うことによって行われます。経済状況に応じて、翻訳を奉仕で行う人もいれば、翻訳に専念する時間を取れるように有給で働く人もいます。

ウルドゥー語の翻訳者の一人になったのは、パキスタンで教会に改宗した人です。当時は教師として働いていました。改宗した結果、仕事を失い、教えていた学校から提供されていた住まいを失い、自分の子供たちの授業料も払えなくなりました。教会翻訳スーパーバイザーは、翻訳者として働くよう彼に申し入れ、相応の支払いをすると伝えました。数か月間翻訳者として働いた後、その人はスーパーバイザーのところへ行き、新しいボールペンを買ってもらえないかとおそろおそろ尋ねました。使っていたボールペンのインクがなくなったのです。そのときに初めてスーパーバイザーは、事務上の手違いで、本来支払われているはずの額よりかなり少ない額しか翻訳者が受け取っていなかったことを知り、正しい額を支払いました。

しかし主は、ジョセフ・スミスを祝福し、彼が務めを成し遂げる方法を備えられたように、翻訳者たちをも祝福されます。例えば、ラトビア語の聖典の翻訳者は弁護士でした。ロシアで法律を学び、その国で回復された福音を受け入れて改宗した人です。ラトビアに戻って、事業を興していました。支部会長としても奉仕していました。これ以上ないほどに多忙でした。しかし、教会には彼と彼の英語力が必要でした。

彼はその要請について祈る時間が

段階2:

- 機関誌『リアホナ』、セミナリー資料とインスティテュート資料、日曜日のレッスンのための資料、賛美歌集と子供の歌、神殿と家族歴史の資料、ステークと地区の放送の通訳など、多くの資料を要請できる。

主要な作業グループ

翻訳チーム:

- 福音を十分に理解しており、神殿に参入する資格を備えている2人または3人の教会員。
- 節単位の翻訳ガイドと用語集、教会本部の翻訳スーパーバイザーによる支援が与えられる。

宗務校閲委員会:

- 地域内に住む3人ないし5人の男女の教会指導者。
- 翻訳文の読みやすさと教義上の正しさを検討する助け手として召され、任命される。
- 委員会が全員一致で同意し、かつその変更が翻訳ガイドに沿ったものとなるまで、文言の変更は行われぬ。

会員校閲者:

- 地元の教会員も翻訳文を検討する。
- 表現の明瞭さと妥当性について意見を述べる。
- 教えが真実であることを聖霊が証できるように、翻訳文を明瞭にする。

聖典の翻訳のプロセスには、頭と心の両方、
知的能力と霊的洞察力の両方が
関わっています。

欲しいと言いました。要請を受け入れると、彼が教会の代表者に告げた言葉を借りれば、「子供たちを食べさせられなくなる」からです。祈った後で、受け入れることにしました。しかし、困難で霊性を高く保つことと多くの時間を掛けることを求められる翻訳を行うために、必要な方法を見つけられるように祝福して下さるようお願いしました。

そして、毎日1時間早く法律事務所へ行き、その時間を使ってモルモン書を翻訳するようになりました。こうして、通常は5年掛かるところを、はるかに早く終わりました。実に、ジョセフ・スミスはおよそ60日でモルモン書を翻訳しましたが、それ以降、これは最も早い翻訳の一つだったでしょう。

聖典を翻訳する業に主の手があることを示す経験を挙げるとすれば、

もっとたくさんあります。それらは全て、これが主の業であること、そして主が聖典の翻訳を非常に大切に思っておられることをはっきりと示しています。主は御業^{みわざ}を行うように人々を備え、彼ら^みがその業を速めるために必要な手段を備えられます。そしてその過程で彼らに靈感を与え、祝福されます。

その結果、心の言語で神の子供たちに与えられる神の言葉によって、世界は豊かになるのです。■

主の聖典を翻訳する業において、これが主の業であることは明らかです。

**主は人々がその業を速めるために必要な手段を備え、
またその過程で彼らに靈感を与え、祝福されます。**

注

1. *Ensign*, 1982年1月号から9月号の間に8回シリーズで印刷されたリネット・H・リード“*How the Bible Came to Be*”参照
2. 例として、“*Church Edition of Spanish Bible Now Published*,” mormonnewsroom.orgを参照
3. マシュー・S・ホランド「*パルマイラへの道*」『*リアホナ*』2015年6月号, 14–19参照
4. ケント・P・ジャクソン, “*Moroni’s Message to Joseph Smith*,” *Ensign*, 1990年8月号, 12–16参照
5. ジョセフ・スミスの言葉, モルモン書序文で引用。ジョセフ・スミスによるモルモン書の翻訳に関する補足説明については, topics.lds.org「福音のテーマ」から「モルモン書の翻訳」の項を参照
6. 翻訳者が単語の意味をよりよく理解できるように、レキシコンでは、英語の聖典における全ての単語の意味が明確にされている。多くの場合、単語には複数の意味があるため、翻訳者は、文脈と靈感、ならびにチームワークに頼って、正しい解釈を確認しなければならない。時折、意味についての質問は、大管長会によってのみ解決される。





十二使徒定員会会長
ラッセル・M・
ネルソン会長

シニア宣教師が

輝く瞬間

年配の夫婦にとって、
すばらしい思い出を作る
最善の方法の一つは、
夫婦とともに伝道に出ることです。

60代や70代の友人が何か忘れるとき、記憶の衰えを冗談めかして「シニアであることを感じる瞬間」と呼びます。でも、別の種類の「シニアであることを感じる瞬間」についてお話したいと思います。それは、すばらしい瞬間であり、その思い出は永遠に残ります。それは、年配の夫婦宣教師が、自分たちは主がまさに自分たちに望んでおられることをしていることに気づくときです。その瞬間、彼らは次のようなことに気づきます。

- これまでの人生で培ってきた、経験や才能やスキルや福音に対する理解を使って人々を祝福することができること。
- 自分たちの模範が、子供たちや孫たちにとって祝福となっていること。
- 奉仕するとき、永遠に絶えることのない友情を築いていること。
- 日々、夫婦のきずなが強められること。
- 主の御名みなによって奉仕することで、喜びが満ちあふれること。

成し遂げる瞬間

わたしの友人である、年配のご夫婦の皆さん、そのような瞬間を皆さんの多くが経験するでしょう。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が、シニアの夫婦宣教師がチリで成し遂げたことについてこのように話しています。これを聞いて、考えてみてください。若い宣教師の一人の親が亡くなりました。伝道部会長は遠くにいたため、すぐにその宣教師のもとに行くことができませんでした。

「しかし、その地域には、熟練の夫婦宣教師が奉仕していました」とホランド長老は語っています。「二人はその宣教師のもとを訪れ、座ってじっくり話し、伝道部会長が彼に直接連絡を取れるまで、優しくいたり、慰めました。どの伝道部にもすばらしい若い宣教師がいます。しかし、この夫婦がその長老のために行ったことは、どの独身の宣教師にもできなかったことなのです。」¹

二人がその瞬間に行ったことは、まさに必要なときに優しい思いやりを伝えるという簡単なことでした。二人は、「キリストのような愛」以外の言語を語ることについては、何も心配していませんでした。孫の誕生日や子供の祝福、その他の大切なイベントに立ち会えないことについても、心配していませんでした。ただ心配していたのは、主の子供たちを祝福するために主に使われる者となるために、自分たちはいるべき場所にいるだろうかということでした。二人が進んで行く心を持っていたので、主は御自分を代表する者として、その二人をお遣わしになることができました。

奉仕を求められるのは、たいてい都合の悪いときである

実際、年配の夫婦宣教師の中で、家を離れることを快適だと思う人は誰もいません。ジョセフ・スミスも、ブリガム・ヤングも、ジョン・テーラーも、ウィルフォード・ウッドラフも、全員にとって、家を離れるのは決して楽なことではありませんでした。子供や孫もいましたし、わたしたちと同じように家族を愛していました。でも、彼らは主を愛し、主に仕えたいと願ってもしました。わたしたちはいつの日か、この神権時代を確立する業を助けた、これらの勇敢な人々に会う

でしょう。そのとき、自分がすべきだった奉仕を悔やまずに済むことを喜ぶでしょう。

中には、自宅に住みながら、奉仕することを希望する人もいます。脳卒中によって、エイシー・シューマッハー・ネルソン（親戚ではありません）が車椅子の生活を余儀なくされたとき、それまでずっと抱いてきた、夫のドンと伝道に出るという望みはもうかなわないのではないかと心配しました。そのとき、隣人の一人から、ビショップの倉で行う教会奉仕伝道について聞きました。勇気づけられた彼らは、施設の管理者と話し、推薦状を書き、自宅近くの倉で週に2回奉仕するよう召されました。

「ただ天を仰いで、『ああ、わたしは必要とされていない』と言うのは簡単です」とエイシー・ネルソンは言います。「でも今、自分は必要とされていると感じます。それはわたしの証^{あかし}です。」



あなたは必ず必要とされている

自分は必要とされていないという思いに捕らわれたら、わたしのこの言葉を思い出してください。「あなたは必ず必要とされています。」教会の伝道部長の中で、自分の伝道部にもっと多くの夫婦宣教師を送ってほしいと願わない会長は一人もいません。夫婦宣教師は若い長老や姉妹を強めてくれます。彼らは人々がその責任をよりよく果たせるように支援し、助けます。そして、まだ教会に入っていない数年しかたっていない指導者にとって、熟練した教会員から直接助けを受けられることが一体どれだけ価値があるか、想像できますか。実に多くの場合、夫婦宣教師は、文字どおり、ビショップや支部会長の祈りの答えなのです。

伝道部長の皆さん、伝道部内の必要を満たすために、夫婦を探してください。ビショップの皆さんは、奉仕することのできる夫婦を探してください。LDS.orgには、夫婦宣教師のための奉仕の機会が、何ページにもわたって示されています。しかし、何よりも大切なのは、夫婦でひざまずいて、今、ともに伝道に出るのにふさわしい時期かどうかを天の御父に尋ねることです。あらゆる条件の中でも、奉仕したいという望みが、最も大切でしょう（教義と聖約4:3参照）。

韓国のソウルの夫婦宣教師。
二人でともに奉仕するすばらしさを味わっている。

わたしは、シニア宣教師の働きを称賛する一方で、奉仕したいと望みながら、できない人が大勢いることも知っています。年齢や、健康状態が良好でないこと、家族から必要とされていることなど、現実的に諦めるしかないと思えることもあるでしょう。しかし、そのような制限があってもなお燃えるような望みを持つなら、他の人があなたの手足となってくれることもありますし、他の人が必要としている資金をあなたが援助することもできるのです。

年配の夫婦の皆さん、ご自分がどんな人物か、どこにいるかに関係なく、どうぞともにこのすばらしい「シニアであることを感じる瞬間」を作り出す機会を持つことについて祈ってください。天の御父は、皆さんに何ができるかを知らせてくださるでしょう。■

注

1. ジェフリー・R・ホランド。ジョセフ・ウォーカー、「Elder Jeffrey Holland: LDS Church Desperately Needs More Senior Missionaries」（「ジェフリー・R・ホランド長老——末日聖徒イエス・キリスト教会はより多くのシニア夫婦宣教師を必要としています」）で引用。Deseret News, 2011年9月14日付, 3



上——モルムローズ夫妻は、定期的にロビンソン会長と会合を持ち、他の人に仕えるために自分たちの才能をどう活用するか、話し合います。その下——ガーナのアクラの訓練センターに入所している若い宣教師たちは、モルムローズ長老姉妹から支援を受けることは、まるで第2の父親と母親がそばで仕えてくれているようなものだと言っています。



自宅にいても、 自宅から離れていても

自宅で、あるいは自宅から離れて奉仕をしながら、シニア宣教師の夫婦は「来て、手助けしてほしい」という声に応じてさまざまな分野で働いています。ワードや支部、伝道本部、訪問者センター、神殿、インナーシティ伝道部（訳注——特別な助けを必要とする人々の住む地域の伝道部）、医療部門、雇用リソース・センター、自立支援プログラム、依存症克服プログラム、家族歴史、記録保存、教会教育システム、広報、人道支援などがあります。さらにもっと大勢の夫婦宣教師が必要とされています。



シニア宣教師

必要とされ、
祝福され、
そして
愛されて

夫婦宣教師としての
奉仕は、
想像以上に柔軟で、
お金もかからず、
しかも
喜びに満ちています。

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

「来て、手伝ってくれないかな。」

アメリカ合衆国ワシントン州に住むジェラルド・モルムローズと妻のローナは、そう尋ねられました。二人は「分かりました」と答えました。二人のかつてのビショップが当時伝道部会長をしていて、一緒に西インド諸島で奉仕をしてくれなしかと尋ねたのです。二人は、ステーク会長から電話があって、アメリカ合衆国ユタ州のソルトレーク・シティーにある教会本部で、コンピューターと人事の部門での奉仕伝道の依頼を受けたときも「分かりました」と答えました。

二人のかつてのビショップであり伝道部会長であったリード・ロビンソンが、今度はガーナのアクラにある宣教師訓練センター会長をしていて、再度電話で、モルムローズ夫妻にもう一度手伝ってもらえないだろうかと言ってきました。

「わたしたちは主にお任せすればいいと知っていました」とモルムローズ長老は言っています。「ですから、今回も主にお任せすることにしました。」二人は「分かりました」と答え、推薦書を書き上げて、召しを受けると、すぐにガーナへ飛び立ちました。

夫婦として奉仕する

モルムローズ夫妻の経験は、伝道の奉仕をする年配夫婦について、幾つかの原則を示しています。それは一般に理解されている伝道とは異なるかもしれません。

- ・ 伝道には二つのタイプがあります。(1) 大管長が年配の夫婦を召して、自宅で、あるいは自宅から離れて奉仕をしてもらう場合。(2)ステーク会長が教会奉仕宣教師の夫婦を召して、1週間に8時間から32時間というパートタイムで、地元や地域の求めに応じて奉仕をしてもらう場合。この場合、夫婦は普通地元に住んで奉仕をしますが、ときどき、自宅を離れて奉仕をする場合もあります。
- ・ 伝道部会長は、伝道部の必要を満たすことのできる夫婦を見つけるよう奨励されています。また夫婦の側でも、自分たちの希望を述べることができます。「夫婦の方で勝手に伝道の割り当てを探してきて、それを選ぶことができると言っているのではありません。」そう説明するのは十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老です。「召しはあくまでも召しです。……〔しかし〕わたしたちは年配のご夫婦に対して、どんな奉仕をしたいか尋ねることにしています。そして、ご夫婦が奉仕をしたい場所で、しかもしたい方法で奉仕できるよう、最大限考慮します。」¹
- ・ 伝道部会長は夫婦と、彼らの技能と能力を最も生かせる方法について話し合います。ロビンソン会長はこう言っています。「シニア宣教師として最も意義のある経験をするためには、情熱をもって取り組み、何かしら人に提供できるレベルの技術があると感じている分野で働く機会が必要です。」



今準備をする

「わたしたちは熟年の夫婦をもっと大勢必要としています。……今準備をするよう強く勧めます。……夫婦そろって……主の業に〔奉仕する〕ことで得られる、すばらしい御霊と充実感を〔存分に〕味わう機会、人生にそうめったにあるものではありません。」

トーマス・S・モンソン大管長
「再びともに集い」
「リアホナ」
2010年11月号, 6

例えば、ロビソン会長は、モルムローズ長老がフランス語を話せることを知っていました。アフリカにはフランス語を話す人が多いため、この分野で役に立てると考えました。「わたしは彼に、旅行とビザ関連の仕事をしていただくと考えていました」とロビソン会長は言います。「でも、彼がここに来たとき、それは彼が本当にしたいことではないなと感じたのです。そこでわたしは彼に、コンピューターの知識を活用してほしいと伝えました。以来、彼はわたしたちのために何時間も費やしてくれています。」モルムローズ長老は同時に、宣教師の手伝いもしています。特にフランス語を話す宣教師たちが、自分の家族のために名前を準備し、神殿活動を行えるように助けています。モルムローズ姉妹は、医療アシスタントの資格を持っていたので、伝道部の医師や看護師と一緒に働く割り当てを受けました。

主が道を備えてくださる

モルムローズ夫妻と同様に他の夫婦たちも、主にお任せしたときには、主が道を備えてくださるという経験をしています。フィリピン、カビテのカウイットに住むアルビン・リータと妻のコラソンがそうです。

リータ長老はこう説明しています。「奉仕に出ようと決意する2年前に、わたしたちの家業の将来の計画を具体的に立て始めました。息子と娘が既に大学を卒業しており、わたしたちの仕事を継ぐことができる状況でした。しかし、仕事上の問題を誰が解決するのか、また顧客がわたしたちの計画にどんな反応を示すのか、それが心配でした。」

リータ姉妹は、年老いた母親を残していくことにも不安を感じていました。「わたしたちが伝道に出ている間に、母が亡くなるかもしれないと心配でした。それに、福音を教えるなどという難しいことができないのではないかとも思いました。」

二人は、ビショップに相談し、また最近までフィリピンのダバオで奉仕をしていた夫婦にも相談しました。「3人とも、主はどの夫婦に対しても、どのように家や家族のことや伝道費用の問題を解決すべきか、そのことについて

導きを与えてくださると、力強く^{あかし}証してくれました。」リータ姉妹はそう語っています。

リータ長老も言います。「わたしたちは導きを求めました。すると、いろいろ心配していたことが解決したのです。事業は問題があるにもかかわらず、うまくいくようになりました。顧客も言葉に出して喜んで励ましてくれました。また、家族が一緒になって病気の母親の面倒を見ることで、さずなが深まったのです。わたしたちは、主が本当に助けてくださるのだと理解できるようになりました。」

リータ夫妻は、現在、フィリピン・カガヤンデオロ伝道部で会員と指導者を支える奉仕をしています。

できることはたくさんある

夫婦の中には肉体的な面で限界があると心配している人たちもいます。しかし、アメリカ合衆国ユタ州のキース・マウアーマンと妻のジュニリンの場合はそうではありませんでした。何年も前、カリフォルニア州ロサンゼルス神殿での結婚4か月後、キースは徴兵され、戦地へ送られました。空挺部隊長だった彼が、他の兵士の先頭を歩いていたとき、地雷が爆発しました。そのために彼は両脚を失ってしまったのです。彼が帰還したとき、ジュニリンは彼のそばに駆け寄りました。

キースはこう言っています。「わたしは、心配する必要なんてないんだと分かりました。わたしたちは永遠の結婚をしていたからです。以来ずっと妻はわたしのことを支えてくれました。今でも毎日支えてくれています。」

マウアーマン姉妹が退職したとき、二人は伝道に出ようと決意しました。しかし、マウアーマン長老が両脚を失っているということは問題にはならなかったのでしょうか。彼はこう言っています。「どんなときでも、わたしにはできないことはあります。でも、できることもたくさんあるんです。だから、わたしたちにもどこかに出番があることは知っていました。」

彼は推薦書を記入していて、従軍したことがあるかどうかを尋ねる欄に「はい」と印を付けました。間もなく、教会軍務部局から電話がありました。「わたしは軍の基地に入れ



る身分証明書を持っていました。そのため、教会からわたしたちを軍務関係伝道に推薦したいということで、許可を求めてきたのです。」

マウアーマン夫妻は、アメリカ合衆国ノースカロライナ州にある軍の基地で奉仕をする召しを受けました。マウアーマン長老はそのときのことを思い出してこう言っています。「基地の入口には、『空挺隊のふるさと-フォートブラッグ』と書かれていました。入り口では守備兵が空挺隊のモットーである『貫徹!』という言葉で迎えてくれました。本当に何年かぶりに聞いた言葉でした。わたし自身はフォートブラッグに赴任したことはなかったのですが、本当にふるさとのように感じました。わたしは、この召しが自分たちにはぴったりのものであって、主がわたしを心にかけてくださっていると分かりました。」

を克服してきた人が必ずいます。

世界共通の言葉

ブラジル・クイアバ伝道部に召されたユタ州のランディ・ロムレルと妻のルー・エレンには気がかりなことがありました。ロムレル長老は若い頃、宣教師としてブラジルで奉仕したのですが、ポルトガル語をかなり忘れていました。そして、ロムレル姉妹の方はまったくポルトガル語が分かりませんでした。それでも、勉強と努力の結果、ロムレル長老のポルトガル語の力はだいぶ戻ってきました。ロムレル姉妹の方も成長が見られました。その一つはウクレレが上手になることでした。

ロムレル姉妹はこう言っています。「本当はウクレレを持ち込む計画などなかったんです。でも、ロムレル長老が靈感を受けて持って行くことにしたのですが、その効果は



財政的な問題を解決したリータ長老姉妹は、母国のフィリピンで奉仕をしています。



軍関連の奉仕はマウアーマン夫妻にはうってつけです。「まるでふるさとへ帰ったような気持ちです。」二人はそう言います。



ウクレレを持って行くようにという靈感を受けたロムレル夫妻は、家庭を訪問したり賛美歌を歌ったりするときにはウクレレを使って、音楽という世界共通の言語を分かち合っています。

「わたしたちは自立と立ち直りについて、そして結婚生活を強めることについてレッスンしました。」マウアーマン姉妹はこう語っています。「初め、わたしたちは自分たちの話を人にするのは望んでいませんでした。でも、人に話すことはとても重要だと気づいたんです。兵士とその伴侶たちはわたしたちを見て、こう言うんです。『お二人にできるのなら、わたしたちにもできます。』」

マウアーマン夫妻はノースカロライナ州ですばらしい経験ができたため、再び奉仕の希望を出しました。現在、二人は週に2回、オレムにある自宅からソルトレーク・シティーまで約40マイル(64キロメートル)を運転して、教会軍務部局のオフィスで奉仕をしています。また、プロボにある宣教師訓練センターで年配の夫婦たちにも教えています。そこでは、二人が教えるどのグループにも、奉仕をするために障害

絶大です。わたしたちが求道者を教えたり、最活発化やフェローシップに携わったりするとき、ウクレレに合わせて一緒に賛美歌を歌ってもらうのは楽しいんです。わたしたちはポルトガル語を学び、賛美歌は強い気持ちをもたらしてくれます。」

彼女のポルトガル語はまだ片言ですが、音楽はすでに流暢りゅうに操っています。彼女はこう言っています。「音楽は人々を一つにしてくれるんです。たとえ、訪問先で彼らの言っていることが部分的にしか理解できなくとも、一緒に歌うと心がつながります。」学校で感謝祭というアメリカの祝日について話してほしいという招待を受けたときも、ロムレル夫妻は、感謝の賛美歌を、ウクレレの伴奏で歌いました。ロムレル姉妹は、教会で賛美歌の伴奏をするときには、もっと一般的な楽器であるピアノを使います。

さて、ポルトガル語はどうでしょうか。「そんなに上手に



「み旨に添いません」

「わたしはシニア宣教師が大いに必要とされていることを考えるときはいつも、愛唱されている賛美歌『み旨のまま行かん』（『賛美歌』172番）とそこで歌われている歌詞『み旨に添いません』のことを考えます。」

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス長老

「話せなくとも、ほんの数語使えるだけでも助けになります」と彼女は言います。「ただ『こんにちは』と言ったり、あいさつをしたりするだけでも、随分違いますよ。一生懸命努力していることを、皆に知ってもらえます。簡潔に、そしてあとは御霊に頼るのです。」もちろん、御霊は誰でも理解できるもう一つの言語です。

自宅で奉仕をする

ユタ州のポール・ルイスと妻のマー・ジーンはすでに3回伝道しています（ニューヨーク州パルマイラ神殿、中国香港神殿、クロアチア、セルビア、スロベニアのセミナーとインス

は、伝道に出なかつたら会うことはなかつた、すばらしい人々と出会ってきました。その中には、道からさまよい出た人もいます。そういう人たちが戻って来て儀式を受け、神殿へ行く姿を見るのはすばらしい祝福です。」

今度はルイス長老の言葉です。「伝道に出ることを考えている多くの夫婦は、家や車をどうしようとか、家族との活動が一緒にできなくなってしまうなどと心配します。わたしたちはこれまでどおり自分の家に住み、自分の車を運転することができています。また、伝道の責任に影響を及ぼさない限り、家族の活動には参加するよう奨励されています。実際、ここにいる間に、孫の誕生にも立ち会いましたよ。」



夫婦宣教師を必要としています

「教会内のすべての成熟した夫婦に向けたわたしたちのメッセージは簡潔です。それは、わたしたちは皆さんを心から必要としています、ということです。わたしたちは、皆さんが伝道に出やすくなるように、あらゆる面で便宜を図る努力をしています。時代が皆さんを切に必要としています。皆さんを必要としている人々がいます。どうぞ、伝道に出てください。」

十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホルランド長老
Deseret News,
2011年9月14日付



自宅で住んで奉仕をするルイス夫妻は、自分のステーキの専任宣教師や会員たちと知り合いになることに楽しさを感じています。



ソレンセン夫妻は、クック諸島の学校の子供たちに小さな石を渡し、「キリストにあって岩のように固く」いるようにと教えています。

ティテュート)。二人が次の伝道のために準備をしていると、ステーキ会長から電話があり、こう尋ねられました。「このステーキの中で、ここの伝道部を支援するために、奉仕するお気持ちはありますか。」

ルイス姉妹はこう言っています。「このステーキに移って来たばかりのわたしたちには、すばらしい機会になりました。」「若い長老や姉妹と一緒に奉仕をし、伝道部長と親しくなり、ディストリクト集会やゾーン大会にも行き、ワードの伝道主任と一緒に働きます。」二人は求道者や、あまり活発でない会員を訪ねたりもします。

再びルイス姉妹の言葉です。「わたしたち

家族の祝福

一方、同じステーキ出身のジル・ソレンセンと夫のケントのように、自分の家族を強めるために一番良い方法の一つが、自宅から離れて奉仕することだったと言う人もいます。ソレンセン姉妹はこう言っています。「夫婦が伝道に出ない最も大きな言い訳としては、孫のこと、結婚して問題を抱えている子供たちのこと、妊娠中の娘のこと、高齢の両親のことなど、いくつでもあります。何と言っても家族が大切です。会えないと毎日寂しい思いをします。しかし、伝道に出ることは、伝道活動の大切さを伝える強力なメッセージとなります」

ソレンセン長老は、さらにこう付け加えてい

ます。「今は、いつでも家族の様子を確認できるように、連絡のためのさまざまな手段が用意されている時代です。」

ソレンセン夫婦の伝道の旅は、伝道の奉仕を考えている夫婦のために月1回ファイヤサイドを開いてほしいという、ビショップからの要請を受けた3年前に始まりました。ソレンセン姉妹はこう言っています。「それについて絶えず話している間に、わたしたちも出ざるを得なくなったのです。」二人はクック諸島で奉仕をする召しを受けました。そこはジルの祖父母が50年前に伝道した地でもありました。

現在、二人は、他の業務と並行して、学校で聖書クラスを教える要請を受けています。

ソレンセン長老はこう言います。「わたしたちはキリストが岩であるという話をします。生徒たちに小さな石を渡し、岩のように固くキリストに従い続けるよう励まします。今では



世界中で働く夫婦宣教師は、他の人々を助けるだけでなく、一緒に奉仕をすることで夫婦としてのきずなも強まり、天父にさらに近づくことができると言っています。



どこへ行っても、わたしたちの姿を見ると生徒たちは「岩のように固い」と言います。

来て、手伝ってください

専任伝道や、教会奉仕伝道に出ることを考えている人に対してこれまで紹介した夫婦は皆、ロビンソン会長がジェラルド・モルムローズと妻のローナに言ったことと同じことを尋ねるでしょう。「来て、手伝ってくれないかな。」そして、伝道の内容にかかわらず、約束は必ず果たされると言うでしょう。あなたは必要とされ、貢献することができ、祝福され、愛されるという約束です。■

注

1. ジェフリー・R・ホランド長老, "LDS Church Desperately Needs More Senior Missionaries," *Deseret News*, 2011年9月14日付, deseretnews.com


さまざまな奉仕の方法

現在どんな機会があるか調べたり、現在奉仕している夫婦の話を聞いたり、疑問の答えを探し出したい場合には、以下を参照のこと。 lds.org/callings/missionary

かつてないほど簡単に

夫婦宣教師として奉仕しやすいように、柔軟な方針が設定されています。

- 教会奉仕の夫婦宣教師は、自宅にいて、地元で奉仕をすることができます。
- 夫婦宣教師は6か月、12か月、18か月、または23か月の任期を選ぶことができます。旅費を自分で支払う場合、国外なら18か月以内の奉仕とすることができます。
- 夫婦宣教師は、家族の重大事が起きたときは短期間（通常7日から10日以内）休んで自費で自宅に帰ることができます。
- 住居費には上限が定められている。夫婦宣教師は、賃借料、公共料金、備品の費用を含めて、一定額以上の住居費は支払わない。
- 住居は安全で快適なものである。伝道部や地域本部が、清潔で、適切に備品が用意され、しかも、安価な住居を確実に用意する。
- 余裕もったスケジュールが組まれている。夫婦宣教師は、若い独身の宣教師と同じようなスケジュールで、長時間働いたり、活動をしたりすることは求められていない。
- 家族との連絡ももっと頻繁に取ることができる。夫婦宣教師は、若い独身の宣教師のために定められているルールよりも、もっと頻繁に家族と連絡を取ることができる。



ポルノグラフィーが 家庭を襲うとき、

妻と夫の

両方に癒やしが必要です

夫が
ポルノグラフィーの問題で
苦しんでいるとき、
救い主の癒やしの力が
夫だけでなく、
妻にも注がれることを
間近に見てきました。



匿名

ビショップに召されて最初の6か月の間に、ワードの何組かの夫婦が内密にわたしのもとに来て、夫がポルノグラフィーの使用で苦しんでいることを打ち明けました。妻が夫の廃退的な秘密を最近知って衝撃を受けたばかりである場合もあれば、何か月も何年もの間、妻がずっと知っていたという場合もありました。

わたしはそれぞれの夫婦に哀れみを感じ、「固く縛ろうとする……鎖を振り落とす」のを助けるために一人一人の

兄弟と定期的に会い、注意深く忠告する際に救い主の^{あがな}の贖いの力を感じてきました(2ニーファイ9:45)。

しかし、御霊^{みたま}が最も注がれたのは、おそらくそれぞれの妻と面接しているときだったのではないかと思います。わたしに分かったことは、傷が真新しい場合でも、何年もの間ずっと苦しんできた場合でも、この姉妹たちは次のような疑問を抱いて霊的に深く傷ついているということです。「わたしが何かしたせいで夫はわたしに魅力を感じなくなってしまったのだろうか。」「夫はどうしてわたしでなく他の誰かと一緒にいることを想像したがるのだろうか。」

背いた本人は夫の方ですから、救い主の癒やしの力を受けるために助けが一番必要なのは夫であるとビショップは思いがちです。ところが、夫が罪や執拗^{しつよう}な衝動から癒やされる必要があるのと同じように、妻が苦痛とトラウマから癒やされることもきわめて必要なのです。

預言者ヤコブはニーファイの民への説教の中で、妻に対し不誠実な行為をしていた男性たちを次のように非難しています。「あなたがたの妻子の多くは、神の御前^{みまへ}にあって非常に感じやすく、清く、繊細であ[った]。これは神にとって喜ばしいことである。」(モルモン書ヤコブ2:7) ヤコブはこう続けています。「あなたがたは妻子の前に良くない手本を示して、感じやすい妻の胸を張り裂けさせ……た。彼らの心のむせび泣きが神のみもとに上って、あなたがたを訴えている。」(モルモン書ヤコブ2:35) わたしはそのむせび泣きを直接見てきました。その涙の原因は、夫のポルノグラフィーの使用によって妻が抱く裏切られたという深刻な意識だけでなく、夫が心の奥でもがいている結果として頻繁に表面化する品位のない言葉や不作法な態度にもあったのです。事実、そのような常習癖が明るみに出てしまった男性が、自分の言動を妻のせいにし、妻がした、あるいはしなかったさまざまな行動を引き合いに出すのはまれなことではありません。

あるとき、そのような状態にあった一組の夫婦がビショップ室にやって来ました。青年の頃からポルノグラフィーを常習していたことを、夫が数日前に打ち明けたばかりでした。妻は2014年4月の総大会におけるリンダ・S・リーブズ姉妹の話「ポルノグラフィーからの保護——キリストを中心と

する家庭」に基づいた扶助協会のレッスンを聞いているとき、あることに気づきました。教師が挙げた症状の多くが、自分に対する夫の辛辣な行動と一致していたのです。レッスンの後で、夫に聞いたところ、夫は長い間隠し続けてきた秘密を告白しました。妻は自尊心がずっと傷つけられてきたことに加えて、今度は燃えるような憤りを味わい、二重の苦しみに見舞われました。初めて面接したとき、彼らは結婚生活を続けていく自信がありませんでした。わたしは希望があることを約束し、幾つか最初の助言をし、後日また会いに来るように勧めました。

わたしは面談に備えて熱心に祈りをささげながら、LDS.orgにある「仕え、教え、導くためのリソース」に書かれた提案も読みました。特に、ポルノグラフィーを使用する伴侶を助けるためのリソースを検討しました。そこにはこう書かれています。「彼女に個人的に、またその伴侶にも、あなた



神権指導者はどのように助けることができるでしょうか

ポルノグラフィーに苦しむ会員の伴侶に働き掛けるとき、いかなる助言にも勝るとも劣らない大切なことがあります。それは、話を聞いてもらえた、理解してもらえたと伴侶が感じられるように努めることです。「仕え、教え、導くためのリソース」(ministering.lds.org)にある以下の提案について考えてください。

- 定期的に会って、支援してください。
- ポルノグラフィー使用者の伴侶に個人的な癒やしを与える救い主の力を強調してください(アルマ7:11とマタイ11:28-30を参照)。
- 適切な場合、「依存症立ち直りプログラム」、または同様の支援グループを介して、支援グループ集会に参加することを検討するように、本人に勧めてください。
- 人間関係や家庭で明確な境界を設ける方法を知るために自分自身で靈感を受けられるということが理解できるように、伴侶

を助けてください。

- 継続的に有意義な支援を与えることのできる信頼の置ける友人や家族を見つけることができるように、伴侶を助けてください。
- ポルノグラフィーを使用している人が自分の行動に責任を負うのを助け、またその伴侶を支援してください。
- overcomingpornography.org/?lang=jpn と addictionrecovery.lds.org/?lang=jpn にある伴侶と家族のためのリソース(特に Spouse and Family Support Guide「配偶者と家族を支援するガイド」)をご覧ください。
- ポルノグラフィー使用者の伴侶に専門的な援助やカウンセリングを紹介することを考えてください。福音の原則と調和するサービスを提供している地域の援助手段を見つけてください。



下——ケリーは夫が
ポルノグラフィー依存症であることを
知ったとき、困惑しましたが、
イエス・キリストとキリストの贖罪しよくざいを通じて
希望と癒やしを見いだしました。
overcomingpornography.org/?lang=jpn の
「配偶者と家族」で彼女の経験をご覧ください。

の愛と気遣いを示してください。伴侶のポルノグラフィー使用やひどい行いに妻には責任がないこと、そして虐待的な行いに耐えるようには期待されていないことを明確にしてください。」

この姉妹と面談したとき、この勧告を実践しました。そしてこの勧告に加えて、夫の行動はまったく妻に起因するものではなく、彼女が行ったことや行わなかったことにも関係なく、むしろ彼自身の内面の葛藤に関係があることを明確に説明しました。彼女がこれらの言葉を理解し始め、そのことが本当に真実であることを伝える御霊の確認を感じたときに、重荷が軽くなり安らぎを得るのがはっきりと分かりました。面接の終わりに、彼女は神権の祝福をしてもらえないかと言いました。わたしは、彼女にとってそのような祝福を頼める相手がわたしだけであることを実感しました。彼女が自分の状況を家族や友人に伏せておくことを望んだからです。

癒やしの過程を助けるために、地元の末日聖徒の依存症立ち直りグループに参加するように夫に勧め、妻には伴侶や家族のための支援グループに参加するように勧めました。彼女は、苦しみを分かってくれる姉妹たちと会うことで慰めを得たこと、同じ試練に立ち向かい、力を合わせて乗り越えることに成功した夫婦と会うことで希望が湧いたと話してくれました。

今やこの夫婦と最初に面接してから数か

月たちますが、度々話し合ってきたことで、彼らに対するわたしの愛と関心は深まりました。彼らが歩み続けている道が困難なものであることが分かっている一方で、夫が情欲とポルノグラフィーから解放された状態で1か月また1か月と過ごせたことを知り、妻が自尊心と自信を明らかに増し加えていく姿を見ることに喜びを感じます。

最近の面接では、当初見られた苦悩と涙に取って代わって笑顔が頻繁に見られ、時には笑い声さえ聞かれます。しかし、おそらく最も大いなる成果は希望を持たなかったことであろう。結婚生活を続けていくことへの希望だけでなく、本当に美しい、高尚な結婚生活にすることができるという希望です。

残念ながら、全ての夫婦がこれと同じ成果を得られるわけでないことは承知しています。ポルノグラフィー使用者が進歩を拒むことで、結婚生活が破綻する場合があります。しかし、夫が選択する道に関係なく、妻たちを教え導くための勧告は靈感によって与えられることを知りました。このような状況にある姉妹が誰一人として、ビショップに見過ごされたり、誤って判断されたり、誤解されたりしていると感じることがないように願っています。ビショップの働きが鍵であり、それを通して救い主は一人一人の心を、すなわち「深い傷を負っ[た]」人の心さえも、完全に癒やす力を示されるのです(モルモン書ヤコブ2:35)。■



伴侶のための 助言と慰め

「わたしたち指導者はまた、ポルノグラフィー依存症に陥った人の伴侶や家族のことを心配しています。リチャード・G・スコット長老は次のように述べています。『皆さん自身が深刻な罪に捕らわれていないのでしたら、伴侶や家族の罪の結果に不必要に苦しむことはありません。……皆さんは哀れみを抱くことはできます。しかし、その人が罪を犯したことに皆さんが責任を感じる必要はないのです。』あなたは独りではないことを知ってください。助けを受けることができます。伴侶のための『依存症立ち直りプログラム』の集会在設けられています。そこでは電話で参加する話し合いの場が設けられていて、伴侶や家族は電話で自宅から参加することができます。」

中央扶助協会会長第二顧問
リンダ・S・リーブス
「ポルノグラフィーからの保護——
キリストを中心とする家庭」
「リアホナ」
2014年5月号, 15-16

塔の見張り人

「エルサレムよ、わたしは
あなたの城壁の上に
見張り人^{みはり}をおいて、
昼も夜もたえず、
もだすことの
ないようにしよう。
主に思い出されることを
求める者よ、
みずから休んではならない。」
イザヤ 62：6

見張り人

見張り人とは、城壁あるいは塔に配置され、遠くから近づいてくる危険を察知し、警告する歩哨^{ほしやう}を指します。彼らが雇われているのは、町だけでなく、ぶどう園や畑、あるいは牧場などを守るためです。

塔の種類

城壁の塔は、通常、城壁の門や角に建てられます（歴代下 26：9 参照）。城壁の門と角、どちらの塔も、高い位置にあることで、そこから、迫り来る危険を確認し、敵の攻撃をかわすことができました（歴代下 26：15 参照）。

砦^{とりで}あるいは塔は、通常、独立した構造になっていて、高台や戦略上優位な場所に建てられました。中には、敵の攻撃を受けたときに、町の全住民が逃げ込むことのできる最後の避難場所となるほど大きなものもありました（士師 9：46 - 52 参照）

ぶどう園や畑、牧場の塔は構造的には小さく、作物や家畜をどろぼうや^{どうぼう}獐猛な動物から守るために建てられました（歴代下 26：10；イザヤ 5：2；27：3 参照）。多くの場合、塔の下の方には、さまざまな道具を保管する部屋がありました。





監視する 務め

「何世紀にもわたって、預言者たちはその義務を果たし、人々の前にある数々の危険について警告を発してきました。

主の使徒は、人生の疑問に対する答えを求めている人々を見守り、彼らに警告し、手を差し伸べる義務を負っているのです。」

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老
「神が舵を取っておられる」
『リアホナ』2015年11月号, 25 - 26

聖書に記されている事実



旧約聖書の中で、主は砦や塔にたとえられ（詩篇 18:2; 61:3; 箴言 18:10; サムエル下 22:3 参照）、預言者は見張り人にとえられることがあります（イザヤ 62:

6; エレミヤ 6:17; エゼキエル 3:17; 33:7; ホセア 9:8; ミカ 7:4 参照）。

「わたしはあなたをイスラエルの家のために見守る者とした。あなたはわたしの口から言葉を聞かたびに、わたしにかわ代って彼らを戒めなさい。」

（エゼキエル 3:17。エゼキエル 33:1-7 も参照）

塔の見張り人——

より高い位置から見渡すことができる。神から召され、権能を授かった僕である預言者は、この世から離れ、神に近づき、より永遠の観点から物事を見ることができます。

他の人には見えないものを見ることができる。「聖見者は過去のことも将来のことも知ることができます。解訳器によってすべてのことが示されるのです。というよりむしろ、秘密のことが明らかにされ、隠れたことが明るみに出るのである。知られていないことが解訳器によって知られるようになり、またほかの方法では知ることのできないことが、解訳器によって知られるようになります。」（モーサヤ 8:17）

警戒を怠らない。預言者は迫り来る危険についてわたしたちに警告するという神聖な責任を負っています。また、世論や社会的風潮に関係なく、そのような責任を果たし続けます。

遠い未来の事柄であっても、そのことについて警告する。「預言者は罪を非難し、罪のもたらす結果を予告する。預言者は義の説教者である。時には、人類のために将来について予告をするように靈感を受けることがある。」（「預言者」『聖句ガイド』lds.org/scriptures/gs?lang=jpn）

安全と守りを与える。預言者の警告に耳を傾けることで、わたしたちは安全を確保でき、従わなかった場合に個人や集団として被る可能性のある災いを、避けることができます。■



2度目の機会

初めて彼と会ったとき、わたしはバイオリンを抱えていて、

足を出すたびにバイオリンケースがパタパタと足に当たっていました。食堂に向かっているわたしに、彼は足を引きずりながら近づいて来ました。

「バイオリンだ。」近づきながら彼は言いました。

「そうよ」と、わたしは言いました。

それまで障がいのある人とちゃんと話をしたことがなかったわたしは、それ以上何を言ったらよいか分かりませんでした。彼はわたしがテーブルに着くまでついて来て、わたしの横に座り、バイオリンケースを指さして、

また「バイオリンだ」と言いました。

わたしがケースを開けると、彼の目が輝きました。彼がとても乱暴に弦をはじくので、わたしは弦が切れるのではと心配になり、ケースをそっと閉めました。彼はわたしを抱きしめ、その場を離れました。

そのことがあってから、彼の姿を

「**バ**イオリンだ。」近づいてきたウィリアムは言いました。



度々目にしました。

彼はわたしを見つけると、必ずわたしの肩に手を回して、頭の上にキスをするのです。

その後高校に行っている間、近寄って来る彼を見るたびに、彼を避けるようになりました。わたしを見つけたときの彼の抱擁と、べとべとのキスに閉口していたわたしは、数秒は作り笑いをして我慢しましたが、その後は何も言わずにさっさとその場を離れるようにしていました。

高校での最後のオーケストラ演奏会で彼を見かけたとき、「あ、まただ」とつぶやいてしまいました。演奏会が終わり、ホールの外で友達といるところに彼がのろのろとやって来ました。

腕を広げてわたしを抱擁しようと笑顔で近づく彼に、友人たちは後ずさりしました。

「ウィリアム！」

振り向くと、一人の女性が小走りです。わたしたちの方にやって来るのが見えました。

「ごめんなさいね。」その人は彼の腕を取ると、そう言いました。「ウィリアムはバイオリンが大好きなの。今晚の演奏会にどうしても連れて行って欲しくて聞かなかったのよ。さ、行きましょう。」

わたしはそのときまで、彼の名前さえ知らなかったことに気づいていませんでした。初めて会ってから2年もたっていたのに、わたしはただ彼を避けるばかりで、彼についてまったく知らなかったのです。遠ざかるウィリアムと彼のお母さんを見ているうちに、

恥ずかしさでいっぱいになりました。

その後何年かたってわたしは結婚し、ダウン症のかわいい男の子を産みました。わたしたちはその子をスペンサーと名付けました。息子を見ていて、ウィリアムのことを考えることが何度もありました。スペンサーも同じような経験をするのでしょうか。キスが大好きで、強く抱きしめる彼は人から疎まれるのでしょうか。障がいのある彼を友達は不快に思うのでしょうか。

スペンサーが4か月になったとき、予約があったので地元の病院に彼を連れて行きました。スペンサーを車から降ろしたとき、病院から出て来る二人の人が見えました。なんとそれは、ウィリアムと彼のお母さんでした。

「ウィリアム！」わたしは近づくと、声をかけました。胸が高鳴りました。

「やあ！」ウィリアムは満面の笑顔で駐車場をゆっくり横切ってやって来ました。彼は手を差し出し、力強くわたしと握手しました。

「元気にしてる？」彼に尋ねました。

「バイオリンだ」と言う彼の眼は興奮してきらきら輝いていました。

バイオリン。彼もわたしのことを覚えていたのです。わたしは涙でのどを詰まらせながら、笑って言いました。「そうよ。バイオリンを弾いていたわ。」

言葉を交わしながら、わたしの心は、愛にあふれる天の御父が注いでくださった深い憐れみに対する感謝の祈りでいっぱいになりました。御父は、またウィリアムに会いたいと思っていたわたしの願いを御存じだったのです。神が、息子の健康問題とその将来のことで心配し、苦しんでいる若い母親のわたしを目に留め、神は確かにわたしたちを御存じであることを思い出す経験を与えてくださったことに感謝しています。■

ケイリー・ボールドウィン
(アメリカ合衆国、アリゾナ州)



支払いのために小銭を
カウンターの上に
並べる音が聞こえました。
一体幾つ並べたら
終わるのだらうと思えるほど
並べています。

言ったらよいか天の御父に伺いました。すると、前と同じ声が聞こえて、わたしにこう言いました。「自己紹介して、助けが必要かどうか聞くのです。」わたしは車に近づいて、自己紹介しました。そして、助けが必要かどうか聞いた方がいいような気がしたので、と言ったのです。

女性はわっと泣き崩れて言いました。「イエス様に祈り終わったところなんです。助けてくれる人を送ってくださいと祈りました。」

天の御父は、彼女の祈りにこたえてくださったのです。わたしは彼女の車のガソリンを満タンにしてその代金を払い、自分の定員会の中に職員を募集している人がいたので、その人の電話番号を渡しました。その後この若い母親がどうなったのかは分かりませんが、わたしは彼女を助けなさいという導きに従ったことを感謝しています。■

トーマス・ロビンズ
(アメリカ合衆国、カリフォルニア州)

行って助けなさい

わたしはガソリンスタンドで列に並んでいました。わたしの前には小さな子供を二人連れた母親がいて、3ドル分のガソリンとバニラアイスのコーンを2本頼んでいました。

お金に困っていることは、一目で分かりました。子供たちは、はだして、ぼろぼろの服を着ていたのです。

支払いのために小銭をカウンターの上に並べる音が聞こえました。一体幾つ並べたら終わるのだらうと思えるほど並べています。

わたしは自分のガソリン代を払うと、歩きながら、この母親の車をちらりと見ました。型が古く、燃費もかなり悪そうでした。

この二人の子の母親に少し同情しましたが、わたしはバイクのエンジンをかけて、そこを出ました。

すると、幹線道路に入って1分もしないうちに声が聞こえたのです。「行って助けなさい。」こう促す声が2度聞こえました。

わたしは首を横に振りました。あの母親はもうあそこにはいないと思ったのです。それに、いたとしても、何と行って話し掛ければよいのでしょうか。

同じ声がもう一度、はっきりと、聞こえました。「行って助けなさい。」

わたしは、あの女性がまだいたら何と言おうかと考えながら、ガソリンスタンドに引き返しました。

ガソリンスタンドに着くと、彼女の車がありました。ドアが開いています。彼女は運転席に座っており、二人の幼い子供たちは後部座席でおいしそうにアイスクリームを食べていました。

わたしは短い祈りをささげ、何を

撃ってはなりません

ボブとわたしはパトカーの中に座り、その通りで何らかの動きがあるのを待っていました。警察の無線警戒で問題となっていた車を発見後、わたしたちは2時間前から張り込みを始めていました。

警報で「強盗事件発生」の連絡を受けていたのです。「武器を持った男性2名。先ほど、オレンジ色の車に

乗っているところが目撃される。目撃者の証言によると、凶暴で、即、発砲する危険あり。」

同地区では、最近、武装強盗事件が立て続けに発生していました。警察による最善の努力もむなしく、強盗たちは逃亡を繰り返していました。暗い通りに面する家から出て来た二人組がオレンジ色の車に飛び乗る姿を

見たとき、すぐにそのことが頭に浮かびました。二人はこちらに向かって進んで来ました。

「応援を求む」わたしはそう伝えました。「容疑者、現在地から北へ移動中。」

ボブとわたしが追尾する中、覆面パトカーで応援に駆けつけた二人の私服刑事は、問題の車の前方を走り

その緊張の瞬間に、
声が聞こえたのです。
穏やかではありましたが、
権威ある力強い声でした。
「撃ってはなりません!」



ました。車3台が橋に入った後、応援の車が突如、オレンジ色の車の前で、橋を横切るように止まり、わたしたちは問題の車の後ろに、ちょうど容疑者を挟み撃ちにするような形で止まりました。それとほとんど時を同じくして、問題の車は停車し、容疑者の二人はさっと身を伏せました。

「頭に手を置いて、車から出て来い！」わたしは、自分の車から出ると、そう命じました。何の反応もありませんでした。

いつでも発砲できる状態で、もう一度、命じました。「頭に手を置いて、車から出て来るんだ！今すぐだ！」

突然、運転をしていた人物が、起き上がり、わたしの方を向きました。手に持った金属のようなものが光るのが見えました。

警察官としての訓練と常識から、わたしは自分の命を守るために引き金を引こうとしました。しかし、その緊張の瞬間に、声が聞こえたのです。穏やかではありましたが、権威ある力強い声でした。「撃ってはなりません！」

いつ打たれてもおかしくない状況でしたが、わたしは車の中の男が先に発砲するのを待ちました。しかし、男は両手を挙げ、頭上に銃のようなものを掲げ、それから両手を膝の上に降ろしました。

「止まれ！」そう言いながら、わたしは車の方に駆け寄りました。「動くな！」

わたしたちの動きはテレビ番組のようでした。冷酷な犯罪人と思っていた車の中の二人が、実は、おびえた若い女性たちだと分かるまでは。銃と

思っていたのは、ただのシートベルトの留め具だったのです。

彼女たちはボーイフレンドにこの車を貸していたということが後で分かりました。彼らがどういう連中か知らなかったのです。

「キャル、君はもう終わりだと思ったよ。」あとでボブはわたしにそう言いました。「自分も危うく発砲するところだったけれど、どうしてそうしなかったのか分からない。」

覆面パトカーに乗っていた二人の刑事も、同じようなことを言いました。ただ、あの声を聞いたのはわたしだけでした。わたしは知っています。天の力以外に、二人の女性を死から救い、また4人の警察官を悲劇的な過ちを犯さないよう助けられたものはありませんでした。わたしはこの経験を通して、天の御父は、わたしたちの益のために、介入することがおできになるし、実際そうされることがあるという確かな知識を得ました。■

匿名

モルモン書を 読むように 教えなさい

ス イス・ジュネーブ伝道部で奉仕している間に、わたしは支部会長として召され、任命され、妻は扶助協会会長として召されました。低迷している支部を活性化するために、わたしたちは力を合わせて懸命に働きました。支部は1960年代に組織され

たのですが、長年バプテスマを見ることなく、15年間、宣教師を伝道地に送り出していませんでした。

支部が直面している多くの困難を解決するために、主の助けが必要なことは明らかでした。支部の問題について祈った後、主の御霊^{みたま}がわたしにこう語りかけました。「モルモン書を読むように教えなさい。そうすればうまくいくでしょう。」

直ちに、わたしたちは、モルモン書を読み始めるよう全会員に決意してもらう計画を立てました。

驚くべき結果がもたらされました。支部に平安と御霊が戻って来たのです。新たに数家族が教会に入りました。奉仕したいという願いを持った若い男性が一人、伝道に出ました。問題を抱えていた数組の夫婦の関係が強められ、家族の仲が良くなりました。現在も支部の進歩は続いています。

わたしたちは支部の会員とともに、モルモン書の持つ奇跡的な力を目の当たりにしました。モルモン書はまさに、わたしたちの宗教のかなめ石であり、福音とイエス・キリストに対するわたしたちの証^{あかし}のかなめ石です。わたしたちは心からモルモン書を愛しています。モルモン書は、終わりがなく変わることはない知識の源です。

この経験により、わたしたちは、地上を覆う霊の暗闇から兄弟姉妹を救い出すうえで、モルモン書が最も確実な手段であることを教えられました。この聖典は、平安、喜び、幸福、そして救い主イエス・キリストに従いたいという強い願いをもたらししてくれます。■

エミリエン・リウー(カナダ、ケベック州)

サタンの偽りを見破る

デニス・C・ゴント

スーパーで米ドル札を2枚、財布に入れようとしたとき、そのうちの1枚に目が留まりました。緑色が他の札に比べて薄いような気がしたのです。良く調べてみると、ジョージ・ワシントン大統領の肖像画があまり鮮明でないことに気がつきました。それに、紙の触感も違います。偽札だったのです。店員は本物のドル札と交換すると、偽札を店長に届けました。

そのとき以来、わたしはその偽札についてあれこれと考えるようになりました。どのくらいの間使われていたのだろうか、何年間にわたって何人くらいの人が、偽札と気づかずに使っていたのだろうかと考えました。実際にわたしも、注意していなければ、気づかずに使っていたかもしれないのです。しかし、本物と比較して、似ている点ではなく異なる点を探していたおかげで、偽札だと見抜くことができました。

モルモン書には、人々を霊的に欺こうとする人たちがたくさん出てきます。サタンの手口を使って、自分の利益のために偽りを言い、人をだまそうとする人たちは。そのような人たちの策

略や手口を調べると、彼らの誤りや間違いが分かるようになります。それは、見る目を養えば本物の札と偽札の見分けがつくようになるのと同じです。違いを見分ける目が養われてくると、今の世の中で欺こうとする人たちに遭っても、用意ができていたのでだまされなくなります。

サタンの欺きに対抗するための情報収集活動

サタンは独自のやり方で霊的に欺いてわたしたちを神様から引き離そうとしますから、注意していないとだまされてしまいます。ジョセフ・F・スミス大管長（1838 - 1918年）は次のように警告しています。「サタンは模倣が巧みですし、本物の福音の真理が世の中にどんどん広まるにつれ、サタンは間違った教義という偽札をまき散らします。サタンの偽札に注意してください。この偽札で買えるのは失望や不幸、霊の死以外にはありません。」¹

サタンの偽物の教義にだまされないようにするための最大の防御は、できる限り福音の真理に精通することです。真理を深く知れば知るほど、サ

人々を霊的に欺こうとする人に
出会った場合、
何が正しく
何が間違っているかを
判断するためには
モルモン書が役に立ちます。

タンが偽物の教義を持ち出してきたときに違いを指摘することが容易にできるようになります。ですから、偽物の教義を持ち出されたら、わたしがドル札を調べたように、類似点ではなく異なる点を探すのです。なぜなら、どんなときでも、真理と異なれば偽物だということが明らかになるからです。

エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 - 1994年）は、次のように教えています。「モルモン書は、キリストの敵を明らかにします。……わたしたちが誤りを見抜き、今日の誤った教育や



政治、宗教、哲学の概念とどう戦ったらよいかを知ることができるように、神は実に無限の先見の明をもってモルモン書を備えられたのです。」²

今日、わたしたちはサタンとの戦いのさなかにいます。どんな軍隊もそうですが、わたしたちは敵が何をしようとしているかを把握しなければなりません。例えば、敵がいつ、どこを攻撃してくるかが分かったとしたら、それは何にも代え難い貴重な情報です。そのような情報を得ることを「情報収集活動」と呼ぶのはそのためです。敵

を知るとは、敵よりも賢くなることです。サタンのだましの手口に対抗するための「情報収集活動」には、モルモン書が役に立ちます。

へつらいの言葉は偽りである

モルモン書に出てくる偽りの伝道者の優に半数は、へつらいの言葉を駆使し、カリスマ的な性格を利用して目的を遂げようとしています。例えば、シーレムは「博学で、民の言葉に完全に通じていたので、悪魔の力によって

多くの甘言と十分な弁舌の力を用いることが」できました（モルモン書ヤコブ7:4）。ノア王の邪悪な祭司たちが「へつらい事を語った」ために（モーサヤ11:7）、民は偶像礼拝などの邪悪な行いにふけるようになりました。コリホルもその時代に同じような目的を遂げ、「多くの人の心を惑わし」ました（アルマ30:18）。アマリキヤとガデアントンは、どちらもへつらいの言葉を巧みに操って自分に従う邪悪な人々を軍隊に仕立て上げています（アルマ46:10；ヒラマン2:4参照）。

これは偶然ではありません。へつらいは浅薄で不誠実で、真理に基づいておらず、大げさなものです。ニーファイは、「このように、偽りの、むなし、愚かな教義を教え、心の中で誇り高ぶり、自分たちのはかりごとを深く隠して主に知られないようにしようとす者」に注意するよう警告しています。そのような人は「大勢」いて、「彼らの行いは、闇の中にある」からです（2 ニーファイ 28：9）。

へつらいの言葉はよく、欺くために使われます。通常、欺くそぶりなど見せないで、たくらみが表に出ることはありません。へつらいは実体のない上辺だけの言葉であり、生まれながらの人の心に潜む虚栄心やプライドをくすぐります。しかし、主の預言者は、簡潔で大切な真理を教えています。わたしたちはそれに聞き従う必要があります。

へつらいはサタンの語る言語です。大管長会第二顧問であったジェームズ・E・ファウスト管長（1920 - 2007年）は次のように説明しています。「多くの場合、[サタンの]言葉はもっともらしく聞こえ、正当なことを言っているように思えます。サタンの誘惑の声は、耳に快く響き、わたしたちの心をそそります。厳しいところや耳障りなところは一つもありません。サタンが厳しく意地悪な言い方をしたら、それに耳を傾ける人は誰もいないでしょう。」³

人の虚栄心やプライドだけに訴えるような考えや見解、意見を世の中の人々が持ち出してきたり、真偽が疑わしいようなうまい話を持ちかけてきたりした場合は、直ちに警戒しなければなりま



「サタンの誘惑の声は、耳に快く響き、わたしたちの心をそそります。サタンが厳しく意地悪な言い方をしたら、それに耳を傾ける人は誰もいないでしょう。」

せん。偽物だと考えて対処してください。主の預言者から教えられた真理と照らし合わせるのです。類似点ではなく相違点を探してください。間違った考えであれば、すぐに分かります。

多くの人を惑わした偽りの伝道者 —— ニーホル

ニーホルはサタンのへつらいの手口を駆使しました。人々を霊的に欺くとはどういうことか、ニーホルの場合を例に調べてみましょう。ニーホルは、^{あがな}贖い主という概念を含むと思わせる教義を教えていて人々からの受けが良く、ニーファイの民の間ではカリスマ的な説教者となっていました。ニーホルは「全人類は終わりの日に救われ」、「永遠の命を得る」はずであると教えて、多くの人の支持を得たのです（アルマ 1：4）。

このニーホルの教えに非常に多くの人を引き付ける力があつたのはなぜか、分かりますか。ニーホルが教えたのは、何でも大目に見てくれる神、厳格さのかけらもない神でした。何があろうと全ての人を愛し、全ての人を救ってくれる神でした。ですから、行って好きなことをしなさい、それは全て良いことなのだから、と教えたのです。これは人心を引き付ける考え方で、今日の人々と同様、ニーホルの時代にも多くの人に受け入れられました（アルマ 1：5 参照）。天国行きの切符が代価を払うことなく手に入るといのは、人々の望むところかもしれません。

では、ニーホルの教えのどこに問題があつたのでしょうか。その主要な論点を見直してみましょう。

- 神は全ての人を創造された —— 正しい。
- 神は全ての人を愛しておられる —— 正しい。
- 人は神を恐れてはならない —— 正しい。
- 救われることを喜びと考えるべきである —— 正しい。

ここまでは、ニーホルの教えたことと福音の真理には、類似点がたくさんあります。しかし、忘れないでください。偽札のときにしたように、わたしたちは類似点ではなく相違点の方を探さなければならないのです。そこで、ニーホルが最後にどう言っているのか、見てみましょう。

- 神は全ての人に永遠の命をお与えになる —— 間違い。

ここで初めて、ニーホルが人々を霊的に欺こうとする者であることを示す重要な相違点が出てきました。肉体の死からの救いは全ての人に保障されていますが、霊の死からの救いは、進んで悔い改めるという条件付きで与えられるものです。永遠の命は、わたしたちが悔い改めて初めて、受けることができるものです（モルモン書ヤコブ6：11参照）。無条件で与えられるものではありません。

偽伝道者を見抜いた ギデオンとアルマ

神の教会の義にかなった教師であったギデオンには、ニーホルが悪いことをたくらんでいることが、出会ったその日に分かりました。昔、ノア王を

倒そうとしたことがあり、人々を霊的に欺こうとする人と関わった経験があったからです（モーサヤ19：4－8参照）。ニーホルは「その人と激しく論争し、教会の人々を惑わそうとした。しかし、その人〔ギデオン〕は彼に反論し、神の言葉をもって彼を論じた」のです（アルマ1：7）。ギデオンはニーホルが偽りの伝道者であることを知っていました。それを見抜かれると、ギデオンはサタンのもう一つの手口を使いました。殺人です。しかし、ニーホルの死は無駄にはなりません。民は、偽りの伝道者ニーホルを裁いてもらうために、アルマのもとに連れて来たのです。

アルマはニーホルに偽善売教と殺人の罪があることを認めただけではなく、ニーホルを放っておくと、人々の中にある偽善売教のために「民は完全に滅びてしまう」ことも見抜いていました（アルマ1：12）。そこでニーホルは死刑の判決を受け、「不名誉な最期を遂げた」のです（アルマ1：15）。

ギデオンとアルマは、わたしたちが見做すべき模範です。御霊がともにあれば、「現在のことをありのままに」見たり聞いたりすることができます（モルモン書ヤコブ4：13）。欺こうとするサタンのたくらみや陰謀を、「昼が闇夜と違うように、完全に理解して」見抜くことができます（モロナイ7：15）。

わたしたちを「欺こうとする」敵は巧妙ですが、ギデオンやアルマのように、わたしたちはそれを上回る知恵を身につけることができます。わたしが2枚のドル札の違いを見分けること



うそを広める サタン

「敵であるサタンは、わたしたちが失敗することを望んでいます。わたしたちの信心を打ち砕こうとうそを広めています。疑う人や疑い深い人、冷笑的な人ほど洗練され知的であり、神と神の奇跡を信じる信仰を持つ人は世間知らずで盲目で洗脳されている、と悪賢くほめかすのです。またサタンは、霊的な賜物や真の預言者の教えを疑うことは格好がよいと提唱します。」

大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長
「恐れることはない。ただ信じなさい」
『リアホナ』2015年11月号, 78

ができるようになったように、皆さんも、思いと霊だけでなく、見る目も養って、本物と偽物の違いを見分けることができるようになります。そうなれば偽伝道者を見破ることができますから、間違った教えを説く人がいても、それにだまされることはありません。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

注

1. ジョセフ・F・スミス, Gospel Doctrine, 第5版 (1939年), 376
2. 『歴代大管長の教え——エズラ・タフト・ベンソン』124
3. ジェームズ・E・ファウスト「わたしたちを救う力」『リアホナ』2007年1月号, 4参照

マダガスカルで 祝福を数え上げる

教会機関誌
ミンディー・アン・セル

初 めての妊娠が流産に終わって妻は胸が張り裂けるような思いをしましたが、1年後にまた妊娠したとき、ソロフォ・ラベロジャオーナは自分たち夫婦の祈りがこたえられたと感じました。ソロフォと妻のハリー・マーティンは、娘の誕生を最大の祝福の一つだと考えています。ソロフォの説明はこうです。「妻とわたしが神に願い求めたから、神は娘を与えてくださったのです。ですから娘には、マダガスカル語で『神の答え』という意味の名前をつけました。」

マダガスカル出身のヤングアダルトであるソロフォは、神が祈りにこたえ、忠実な者をやがては祝福して下さるということを固く信じています。ソロフォは言います。「人生は厳しいものです。だから、人は望むものが手に入らないと『どうして自分にはこんなことが起きるのか』と疑問を抱き始めることがあります。そして、教会を離れたたり、神を信じる信仰に疑いを持ったりするようになるのです。でも、福音に従って生活し、聖文を読んでもらえば、物事はもっと簡単になります。本当の意味で福音に従って生活してい

れば、本当の意味で祝福も実感することができるのです。」

極度の貧困や不安定な政治、弱い経済基盤、自然災害といった深刻な問題を抱える国に住んでいるのですから、人生は厳しいとソロフォが言うのも無理はありません。しかし、ソロフォにとって、福音に従って生活することから得られる祝福は、どんな困難にも勝るものです。「福音に従って生活している限り、頂く祝福は数えきれません」と言っています。

マダガスカルでは教会の歴史が比較的浅いため（初めて支部が組織されたのは1990年）、ソロフォによると、会員にとって一番つらいのは、教会についてのうわさと誤解だそうです。ソロフォによると、ちょうどリーハイが見た命の木の示現のように、「人々は福音を十分に味わっていないのかもしれません。友達の前に出ると福音を恥としますし、家族から拒否されることを恐れています。」ソロフォが他の人と違うのは、本人に言わせると、こうです。「わたしは福音を恥としたことはありません。わたしは福音に従って生活していますし、あまり興味を持ってくれない人がいても、福音を同僚に伝えたいと常に思っています。」^{あかし}ソロフォは簡単な証をよく

国内の政情が不安定で
経済的な苦勞も絶えませんが、
ソロフォは
福音に従って生活すれば
祝福があると信じています。

伝えていきます。あまりによく証するので、同僚から「牧師」というあだ名をつけられたほどです。

経済的にも政治的にも不安定な国にあって、ソロフォと妻のハリー・マーティンは、神殿で交わした聖約に伴う祝福にあずかれることを固く信じており（ソロフォはウガンダ、ハリーはマダガスカルでそれぞれ伝道し、帰還してから1年後に南アフリカ・ヨハネスブルク神殿で結婚）、主を信頼しています。「わたしには福音がありますし、わたしは自分の人生を神の手に委ねています」とソロフォは説明します。ソロフォがこのように堅固な証に頼ることができるのは、「神がこたえてくださる」という信仰を既に持っているからなのです。■



ソロフォについて

好きな食べ物は何ですか。
 わたしたちが食べるのは米です。米をたくさん食べます。わたしが好きな食べ物の一つは、ラフトと呼ばれるものです。キャッサバという植物の葉を、特殊な道具を使って細切れにし、米と豚肉を添えて食べる料理です。

余暇にはどんなことをしますか。
 キーボードを弾いたり、歌ったり、本を読んだりするのが好きです。支部会長はわたしが歌が好きでキーボードが弾けることを知っていたので、わたしが支部に移って来たときにこう言いました。「これで聖歌隊の指揮者が見つかった。」だから、わたしは時間をささげることになりました。支部にはそれまで聖歌隊がなかったのですが、わたしが教えるようになって、今では皆楽しく歌っています。

マダガスカルについて

言語：フランス語、マダガスカル語
 首都：アンタナナリボ

数字でみると

人口 2,200万 5,222人 (2012年推計)
 マダガスカルにいる動物の80%は、地球上でマダガスカル以外には生息していません。
 世界で4番目に大きな島
 全世界のバニラの60%がマダガスカルから輸出されています。

マダガスカルの教会

末日聖徒の人数 9,190
 ワードおよび支部 37
 ステーク 2
 伝道部 1







十二使徒定員会
デール・G・
レンランド長老

霊の安定—— 沈むことのない船を造る

針路を見失わずに現世を進み、無事に天の家に帰るためには、
霊が十分に安定していることが必要です。

17 世紀の初め、スウェーデン国王グスタフ2世アドルフは、後にヴァーサ号と命名されることになる戦艦の建造を命じました。この船の建造には多額の費用が必要でしたが、中でも船体に使われるオーク材は高価でした。グスタフ・アドルフは、ヴァーサ号を完全に自分の期待どおりにするために、建造工程を細かく監督しました。

建造が始まった後で、グスタフ・アドルフはヴァーサ号の船体をもっと長くするように命じました。船の幅を支える梁が既に貴重なオーク材で組み立てられていたため、王は船体の幅を変えずに長さだけを増すよう造船技士たちに指示しました。そんなことをすればヴァーサ号の堪航性（訳注——安全に航行することのできる性能）が損なわれることを知りながら、造船技士たちは、王に聞く気がないと分かっている事柄を進言するのをためらい、指示に従いました。グスタフ・アドルフはまた、砲列甲板を通常のように一層だけにせず、三層に大砲を備え、しかも最も重い大砲を一番上の甲板に据えるように求めました。そのときも、造船技士たちは不本意ながら指示に従いました。

1628年8月10日、ヴァーサ号は処女航海に出発しました。ヴァーサ号が港を離れたとき、一陣の強い風が帆に吹き付け、船体は傾き始めました。間もなく「船体は横倒しになり、砲門から勢よく海水が流れ込みました。そして帆や三角旗などを付けたまま、ゆっくりと海底に沈んでいきました。」¹ ヴァーサ号の処女航海は1,300メートルほどで終わりました。

豪華な権威の象徴を望んだグスタフ・アドルフは、当時最強の戦艦となるはずだった壮大な帆船の設計を台なしにしてしまったのです。造船技士たちが王の機嫌を損ねることを恐れて進言しなかったため、王は彼らの知識と見識を役立てることができませんでした。戦艦建造の目的は、スウェーデンを守り、海外における国益を計ることにありました。しかし、関わった全員がその目的を見失っていたのです。物理の法則を無視しようとする船は、当然浮かぶことはできません。

わたしたちが針路を見失わずに現世を進むためには、霊が十分安定していなければなりません。霊が安定していなければ、横風や逆流に立ち向かい、必要に応じて向きを変え、無事に天の家に帰ることはできないからです。霊の安定を高めるためにできることがあります。今日は4つのことについて話します。

✦ 神の戒めに従う

第1は、神の戒めに従うことです。ヴァーサ号が物理の法則に従わざるを得なかったように、わたしたちは皆、霊に関わる法則に従わなければなりません。免除される人はいないのです。わたしたちが神の戒めと呼んでいる、この霊に関わる法則に従う必要があります。

戦艦の建造に当たって物理の法則を考えるのは面倒だと、グスタフ・アドルフは感じたかもしれません。しかし、法則に従っていたら、ヴァーサ号は任務を果たす前に沈んでしまうというようなことはなかったでしょう。そして、本来の目的を果たす自由と柔軟性を持ち合わせていたに違いありません。

同じように、神の律法に従うなら、わたしたちも自分の可能性を実現する自由と、柔軟性と、能力を守ることができます。戒めはわたしたちを縛り付けるためにあるものではありません。むしろ、従順は霊の安定を高め、長期にわたる幸福をもたらします。

従順は選択です。イエスはこのように指示されました。「見よ、わたしはあなたがたに戒めを与えたので、わたしの戒めを守りなさい。」(3 ニーファイ 15:10) それほど簡単なことなのです。決心しましょう。厳密に従順であろうと、今決心してください。これ以上に霊の安定を高めてくれるものはありません。これ以上に大きな自由を与えて人生の使命を遂げさせてくれるものはありません。

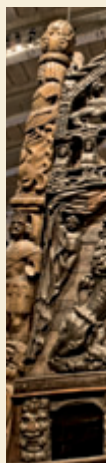
✦ 勧告を心に留め、生涯学び続ける

第2に、信頼できる情報源から受ける勧告に注意を払い、それを心に留め、生涯学び続ける決意をする必要があります。

知識を得ることに関する落とし穴の一つは傲慢ごうまんです。傲慢は、自分の知識を過大評価し、もう学ぶべきものは何もないと考えることから生じます。わたしたちは皆、自分の才能を過信してその落とし穴に落ちてしまった人を見たことがあはずです。知ったかぶりの人に教えるのは至難の業です。

このことを忘れずに生涯学び続けることについて、大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長はこう述べています。「わたしは今も子供のように、たくさん学ぶべきことがあります。ほとんどの人から何かしら教わるができます。」² アイリング管長は、わたしを中央幹部に召したときに大切なことを教えてくれました。自分になじみ深い話や聖句が引用されるのを聞くとき、管長はこう自問すると言っています。「主はなぜわたしにこれを強調したいとお思いになったのだろうか。」「この話あるいは聖句からまだ何を学ばなければならぬのだろうか。」霊の安定を高めたいと思うなら、年齢や経験に関係なく、進んで学ぶ姿勢と、助言を受け入れる十分な謙虚さを持たなければなりません。

それは実にわたしたちの選択なのです。わたしたちは教会指導者、特に預言者、聖見者、啓示者として支持する人々や、親、信頼できる友人の助言に耳を傾け、それを心に留めることができますが、そうしないという選択もあります。生涯学び続けるように努力することができますが、そうしないという選択もあります。霊の安定を高めることができますが、そうしないという選択もあります。もし霊の安定を高めなければ、わたしたちはヴァーサ号のように、浮かばない船になってしまうでしょう。





✦ イエス・キリストを基とする

最後に、第4は最も重要なことです。霊の安定は、どれほどしっかりイエス・キリストを基とするか、その度合いに比例して高まります。

キリストがおられなければ、わたしたちは波に^{ほんろう}翻弄される船のようになってしまいます。帆がないので進む力がありません。錨^{いかり}がないので、安定しません。嵐のときは特にそうです。舵^{かじ}にあたるものが何もないので、方向や目標は定まりません。わたしたちはキリストを基としなければなりません。

人生の横風や逆流に向き合い、それを乗り越え、備えるために、わたしたちは神の戒めに従わなければなりません。生涯謙遜に、進んで学び続ける決意をしなければなりません。また、人に仕え、イエス・キリストを生活の基としなければなりません。そうするときに、わたしたちの霊の安定は高まります。ヴァーサ号とは違って、わたしたちは使命を果たし、無事に港に帰ることができるのです。■

2014年9月16日にブリガム・ヤング大学で行われたディボーションから。英語全文は speeches.byu.edu からご覧いただけます。

注

1. スウェーデン王国議会からグスタフ2世アドルフ国王に宛てた書簡；翻訳をリチャード・O・メイソン著“The Vasa Capsizes.”で引用、virtualschool.edu/mon/CaseStudies/Vasa/vasa.html ヴァーサ号については多くの記事がある。例として、歴史について述べている vasamuseet.se/en や他のリンクを参照
2. ヘンリー・B・アイリング、ロバート・I・イトン、ヘンリー・J・アイリング共著、*I Will Lead You Along: The Life of Henry B. Eyring* (2013年) 409で引用

✦ 他の人に仕える

第3に、外に目を向け、他人を気遣って、人に仕えれば、わたしたちの霊の安定は高まります。

他の人に集中して天の御父の子供たちを助けようと努力するとき、永遠はよりしっかりとわたしたちの視野にとどまるのです。自分のためだけに祈っているときよりも、人をどのように助けられるか知りたいと祈っているときの方が、ずっと靈感を受けやすいということに、わたしは気づきました。

将来、もっとよく人助けができる時が来ると信じているかもしれませんが、今はその時なのです。もっと時間や、お金や、あるいは他の何かを手に入れてからの方がもっと都合よく人に仕えることができると考えるのは間違いです。置かれた状況に関わりなく、わたしたちは選ぶことができます。人を助けるか、助けないかの選択です。困っている人を助ける選択をしなければ、死すべき生涯の大事な試験に落第してしまいます。そして、もし助ければ、自分の霊の安定を高めることができます。

10分で 賛美歌が弾けるように

教会音楽・文化芸術部門
編集および編曲／ダニエル・カーター

ピアノをまったく弾いたことがないけれどもずっと習いたいと思っていた皆さん、チャンスです。必要なのは、音楽用キーボードだけ。自宅になくても、この記事を持ってピアノかキーボードのある場所に行けば、習い始められます。

このレッスンはとてもシンプルで簡単なので、終わる頃には賛美歌が1曲弾けるようになっているでしょう。それどころか、レッスンを始めてから10分ほどで賛美歌の主旋律を弾けるようになるかもしれません。

準備はいいですか。では、始めましょう。

ピアノを弾く準備

1. ピアノの前に座ったら、鍵盤に指を置き、肘がやや曲がるように、椅子を引きます。
2. 椅子の中央に腰掛け、鍵盤中央の正面に座ります。
3. 椅子の前側の端に腰掛け、背中をまっすぐにして体重を前に掛けます。
4. 足は床の上に置きます。
5. 良い姿勢のまま楽に座ります。
6. 十分な照明があって楽譜と鍵盤が見えることを確認してください。





7. 立ちます。手を体の横に下ろして力を抜いてください。すると、ボールを握っているような形で手の指が自然に曲がっているはずです。もう一度座り、手が自然に曲がっている状態で指を鍵盤に置きます。
8. 手を鍵盤の上に置いて、白い鍵盤の広い部分の中央付近に指が触れる

- ようにします。手のひらは鍵盤より高い位置に保ち、鍵盤や鍵盤の下の木の部分に手のひらが触れないようにします。
9. 爪のすぐ下の指の頭の部分で鍵盤をたたきます。指を曲げたま、第3関節(指の付け根の関節)から指を上げます。指の関節を曲げたま鍵盤をたたきます。

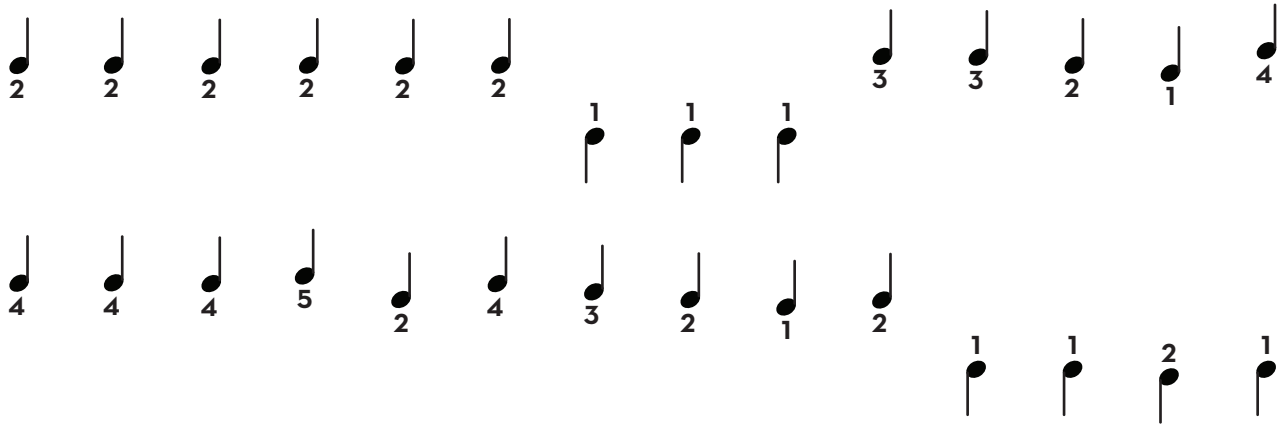


指番号のとおり弾く

正しい指で鍵盤をたたけるよう、指には図のように番号が割り当てられています。指番号は、楽譜では音符の上に書かれています。

どれでもよいので5つの鍵盤の上に手を置いて、指を1本ずつ鍵盤に乗せます。表示されているとおりに正しい指使いで弾いて指番

号の練習をしましょう。棒が上についている音符は右手用です。棒が下についている音符は左手用です。



「街を離れたる青き丘に」を弾く

下の図のように手を鍵盤の上に置きます。

2つまたは3つずつ並んでいる黒鍵を見ながら正しい場所を見つけます。

図に書いてあるとおりの指番号を使ってこの賛美歌を弾きましょう。棒が上についている音符は右手用、棒が下についている音符は左手用です。慣れるまでこの賛美歌を練習します。9つの注意点に書いてある、良い指使いの原則に従います。

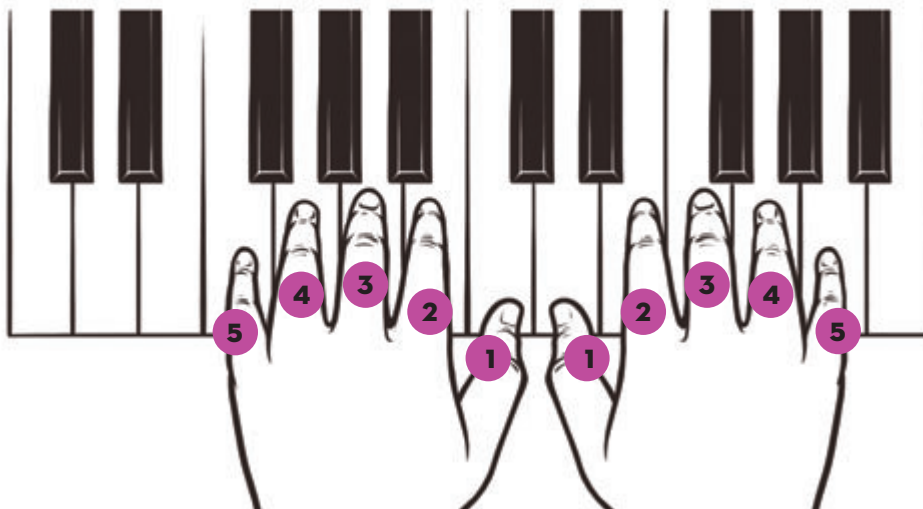
ピアノの手ほどきを受けたあなたは、簡単な賛美歌の主旋律が弾けるようになりました。他の賛美歌を弾くには、拍子やリズム、音符に関する基本原則を学ぶ必要があります。

良いお知らせです。あなたが今学んだのは、教会配送センターから6つの言語で出版されている Church Keyboard Course (訳注——日本語では未出版)の最初のレッスンです。¹簡単に実践できるように説明してあるため、個人またはグループで学びやすい構成となっ

ています。家庭の夕べの活動として家族と一緒にピアノを学ぶこともできます。このコースはたったの6週間で修了することができます。

多くの研究から、音楽の個人レッスンは生徒の集中力や学力、論理的思考力を向上させることが分かっています。²

音楽の技術を学ぶことによって、主から頂いた能力を伸ばし、知識を増し、持っている知識や能力を主の王国を築くために活用するさまざまな方法を身につけることができます。■



注

1. Keyboard Course Kit を注文するには、store.lds.org にアクセスしてください。
2. ローラ・ルイス・ブラウン, "The Benefits of Music Education," pbs.org: ジェシカ・ベラスコ, "How the Arts Can Help Students Excel," the Science of Learning Blog, 2012年12月11日, scilearn.com/blog/how-arts-help-students-excel; "Music Helps Children Learn Maths," The Telegraph, 2012年3月22日, telegraph.co.uk 参照

やめる決意で

何年も練習したにもかかわらず、わたしのピアノはまったく上達していませんでした。

両親が一つの条件をクリアしたらやめてもいいと言いました。

それは賛美歌を50曲マスターすることでした。

グレッチェン・ブラックバーン

わたしはすごい勢いで家に入りました。またしても惨めなピアノのレッスンの後、わたしは目に涙をあふれさせていました。ピアノのレッスンを受け始めて4年目になるというのに、まだ「キラキラ星」ぐらいしか弾けませんでした。先生は、わたしのひどい演奏について何か肯定的なことを言おうとするのですが、わたしはそれを聞いて余計に惨めな気持ちになりました。両親は、意欲も見込みもない娘のためにピアノのレッスン代を払っていました。

両親にやめさせてほしいと伝え、「お願いだから」と訴えました。「何でもやるから。どうしたらいい?」

両親は二人で話し合った結果、こう言いました。「賛美歌を50曲マスターしたら、やめてもいいよ。」

わたしはすぐに練習し始めまし

た。やめたくてしかたがなかったので、喜んで今までよりも長い時間練習しました。最初の賛美歌、「感謝を神に捧げん」(『賛美歌』11番)をマスターするのに1か月近くかかりました。まだやめたいと思っていたわたしは、練習を続けました。

面白いことが起こりました。賛美歌をマスターするのが簡単になってきたのです。1週間、ずっと楽しい気分でした。日中もふと賛美歌を口ずさんでいたり、聖餐会でも大きな声で歌っていたりする自分に気づきました。

やがて、覚えた賛美歌の数を記録するのはやめました。ピアノが上手になるにつれて、分かったことがありました。新しい賛美歌を30分足らずでほとんど完全にマスターできるようになっていたのです。

最終的に、マスターした賛美歌を

全部合わせると、50曲を超えていました。そしてピアノをやめるなんてとんでもないと思うようになりました。ピアノを弾く自分の能力にはるかに自信が持て、生活の中で賛美歌の力を感じるようになっていました。

賛美歌は聖文のようでした。真理を語るからです。賛美歌を演奏するとき、まるで聖文に浸っているような気がしました。賛美歌の弾き方をマスターすることによって、証を築き、真理を学ぶことができました。知らず知らずのうちに、さまざまな賛美歌の歌詞を調べ、日々の生活を切り抜けるための手だてとすることができました。ピアノを弾くことでわたしの証は強くなり、どこへ行っても、さまざまな機会が開かれるようになりました。■

筆者はアメリカ合衆国ニューヨーク州に住んでいます。



ショックと 悲しみと 神の計画

人生で最もつらい経験を通して、
生涯天の御父がともにいてくださることを感じました。

パオラ・サジュビ

2008年のある日、わたしは学校に行きなさいと母に朝早く起こされました。その朝のわたしはとても幸せでした。まさかその日が人生で最悪の日になり、それが母と過ごす最後の時になろうとは知る由もありませんでした。その日は授業を全部受けられませんでした。途中で家族の友人がわたしを迎えに来て、母が自殺したと言ったからです。わたしはまだ12歳でした。

わたしは、「お母さんなしでどうやって生きていけばいいのだろう」と思いました。母はわたしの最高の友達でした。

わたしは何か月も泣き続けました。他の子供たちはそれまでと違って、腫れ物を触るかのようにわたしを扱うようになったので、わたしは学校に行きたくありませんでした。どうしてよいか見当もつきませんでした。ただ、他の人たちのためにしっかりしなければいけないと思いました。

母の死から5、6か月たった頃でしょうか。ある日、わたしは何のために生きているのだろうと考えながら、部屋の窓のそばで一人泣いていました。すると突然、頭の中で声が聞こえました。「あなたはわたしの娘です。あなたをこれ以上苦しめません。」神様の声でした。でも、驚きました。特に母を奪ったのは神様だと思うようになってからは、もう神様など信じていなかったからです。この言葉の意味は分かりませんでしたが、心が安らぎました。

3年後、おじを訪ねてイタリアのローマに行きました。おじは、自分が通っていたこの教会についてずっと話していました。ある日曜日、おじに連れられて教会に行きました。初めて教会の扉のところまで歩いたことや、教会に足を踏み

入れたときに天の御父の愛を感じたことは、決して忘れません。我が家にいるような気がしました。

毎週日曜日に教会に通うようになり、週日の活動にも全部参加しました。わたしは教会の青少年と一緒にいるのが大好きでした。彼らと一緒にいると幸せでした。彼らは、わたしと同じことを考え、同じことを信じていました。そして3か月たって夏休みが終わると、わたしはアルバニアに戻らなければなりませんでした。

家に帰るとわたしは父に、自分が感じた気持ちと、3か月の間どんなに幸せだったかを伝えました。父は気分を害したようでした。教会に行くことも教会についてこれ以上学ぶことも許さない、と言ったのです。そのため、わたしは18歳になるまでの3年間、辛抱しなければなりませんでした。18歳になれば、自分で決断してバプテスマを受けることができます。

この間、わたしは祝福されて、日曜日に教会で学んだことを多くの人から教えてもらいました。その一人がステファニーでした。ステファニーはおじが教会に入ったときにはイタリアに住んでいましたが、その後アメリカの自宅に帰ってしまっていました。おじが、ステファニーとメッセージのやり取りするとよいのではないかと言うので、わたしは彼女をフェイスブックの友達に追加したのです。

実際に会ったことはありませんでしたが、彼女のおかげで信仰を育み、イエス・キリストの福音についてもっと知ることができたので、彼女への感謝の気持ちは消えることはありません。ステファニーはほとんど毎週日曜日にわたしにメッ

セージを書いて、教会で学んだことを全て教えてくれました。それに、わたしの質問にも答えてくれました。わたしにとって大切な友達でした。

数年間待った末、18歳の誕生日の僅か2日後に、とうとうわたしはバプテスマを受けました。そして、その日に感じた幸せな気持ちを間もなく母にも感じてもらえます。母のためにバプテスマを受けるからです。母は、わたしがこの道を選んだことを誇りに思ってくれるでしょう。

人生において、天の御父がさまざまな形でそばにいてくださったので、天の御父に祝福されたと感じます。ただ、天の御父がわたしのために用意してくださった計画があったため、辛抱強く待つ必要がありました。わたしが直面する全ての困難を乗り越えられるよう力を与えてくださったのは、他ならぬ天の御父です。天の御父はいつもそばにいて、わたしが幸せになれるよう助けてくださいました。■

筆者はアルバニア在住です。





七十人
ジョセ・A・
ティシエラ長老

内気な

人でも

主に頼ってください。

そうすれば、主は福音を分かち合おうとする
あなたの努力を祝福して下さいます。

ブラジルで伝道部会長として奉仕し始めた頃、わたしは数人の長老を面接していました。その一人との面接で、自己紹介をしてくれるように頼みました。「わたしはとても内気です」とその長老は言いました。彼は、自分の内気さが伝道のじゃまになっていないか心配していました。わたしはこう尋ねました。「それでも、あなたが良い宣教師になるように主は助けられると思いますか。」

「主は何でもおできになると信じています。」

「それでは、主に助けを求めてください。それができますか。」

「できます」と彼は答えました。

正直言って、わたしはその長老が帰って行く後ろ姿を見ながら、「うまくいくといいのだが」と思いました。

数週間が過ぎ、また同じ宣教師が面接を受けるためにやってきました。今度は、内気な長老の同僚がこう言いました。「会長、彼に何をおっしゃったのかわかりませんが、確かに効果がありましたよ。彼は人と話すのが上手になりました。」その言葉を聞いて、わたしはその宣教師と話すのが楽しみになりました。

わたしの執務室に入って来たその長老は自分の足元を見ていました。



「良い報告があります」と彼は言いました。「わたしは今でもまだ内気ですが、助けてくださるよう主に願い求めました。そして、口を開いて話し始めました。すると、どうなったと思いますか。今はいつも人と話せるようになりました。自分が何と言ったかは全然覚えていません。信じられないことに、相手の人がわたしの言葉に好感を持ち、彼らは御霊を感じて、わたしや、わたしが話した言葉に共感してくれるのです。」

この長老が主を信頼したときに大きく変わったのを見て、わたしは驚嘆しました。彼は多くの人々を幸福に導くすばらしい道具となりました。

「わたしは今でもまだ内気ですが、助けてくださるよう主に願い求めました。」

恐れに打ち勝つ

福音を分かち合うときに、緊張することがあります。しかし、この内気な宣教師の例が示すように、主を信頼するなら、主はわたしたちを導いてくださいます。何を言うべきか分かるように聖霊が示してください(2ニーファイ 32:2-3 参照)。そして、人は御霊を感じると、しばしば良い反応をします。多くの人がわたしたちの信じていることに興味を持ち、もっと知りたいと思うようになるのです。

大きな喜び

福音を分かち合うわたしたちの働きを天の御父が導いてくださるといふ証があります。そして、その過程を通してわたしたちが大きな喜びを味わうことも知っています。事実、その喜びは今だけでなく、来るべき世きたにおいてもわたしたちとともにあるのです(教義と聖約 18:16 参照)。ですから、たとえ内気であっても、自分の殻から抜け出て何か行動を起こすとよいでしょう。■

打ち勝つことのできる 3つの恐れ

内気なこと以外にも、3つの恐れがあることをわたしは知っています。そのせいで、「福音について話すと、友達を失うのではないか」と恐れる人もいます。幸いなことに、信仰によってそのような恐れに打ち勝つことができます。

1. わたしには十分な知識がありません。

福音に関する知識が不足しているのであれば、専任宣教師が助けてくれます。彼らは回復のメッセージを教え、主イエスキリストを信じる信仰が強くなるように助けてくれます。また、わたしたちが悔い改めを理解し、生活の中にそれを応用する方法やバプテスマと聖霊の賜物たまものが大切な理由を理解できるように助けてくれます。知識を深めるためのもう一つのすばらしい資料は、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』です。全ての若い男性と若い女性がこの資料を手元に置き、聖典とともに日々学習するようにお勧めします。

2. 伝道したことがありません。

経験が足りないのであれば、宣教師と一緒に練習しましょう。ある状況で言うべきこと、言うべきでないことが分かるように助けてくれます。宣教師と一緒に時間を過ごすにつれ、彼らが福音や同胞ほらからに対して抱いている愛を感じるでしょう。福音を分かち合う勇気を持っている彼らは、皆さんも同じことができるように助けられます。

3. 福音を分かち合うのが怖いです。

証を述べると、わたしたちの友達がより崇高な事柄に目を向ける助けになります。そして、彼らは別の見方をするようになってわたしたちを尊敬し、愛し始めるのです。ほとんどの場合、そのようになります。多くの若い人はこう言っています。「怖かったですが、正直に話したら、友達が信頼してくれるようになり、もっと質問をしてきました。」わたしたちが持っている福音を分かち合うことを恐れてはいけません。神から与えられた福音は貴いのです。それに、真実だと知っていることを友達に分かち合うこと、これに勝る愛の表現はあるでしょうか。

わたしたちのスペース

あらゆることに正直になる

アリブシ・H (メキシコ, ハリスコ)

わたしの学校では、学期の始めに無料の道具セットをもらいます。そのセットにはノート、予定表、そして無作為に入れたサンプル品が入っています。ある年、自分の道具セットをもらおうと並んだら、わたしにとって特に役立つサンプル品をもらいました。

その日の終わりに、同じサンプル品をまた配っているのが見えました。また列に並べば、同じセットを簡単にもう一つもらえる状況だったので、わたしはそうすることにしました。何しろ無料でもらえるし、それはわたしに必要な物でした。

列に並ぶ前に、少しだけトイレに立ち寄りました。すると、だれか別の女の子が置き忘れた携帯電話を見つけま

した。それは最新型で、わたしはつい1週間前に自分の携帯電話をなくしたばかりでした。でも、その携帯電話を自分の物にしてしまうことなど考えられません。「そんなの盗みだわ」と心の中で思ったのです。

そして、無料のセットをもう一つもらいに行こうとしたとき、これからしようとしていることは、携帯電話を自分の物にするのと同じくらい不正直な行為であることに気づきました。まだもらっていないとうそをつかなければならないからです。

大きな教訓を教えてくれたこの小さな出来事に感謝しました。わたしは

携帯電話を落とし物として届け、ノート1冊、予定表1枚、そしてサンプル品1個だけを持って帰りました。どんなにささいなことであっても、全てのこと誠実にやったことで良い気持ちになりました。■



じゅうぶん 什分の一の律法に従った祝福

サブリーナ・T (ブラジル, サンパウロ)

わたしが小さかった頃、家族とわたしは多くの経済的な試練に遭い、その状態はわたしが10歳くらいになるまで続きました。父は他の仕事を見つけることができなかったため、露店商として働きましたが、収入はごくわずかでした。母はわたしと弟の世話をするために家にいました。

しかし、それほど多くの苦難に遭っても、わたしたちには什分の一と他のささげ物^{あかし}をすることに対する証がありました。わたしたちは毎月忠実に什分の一を納め、必要に事欠くことは決してありませんでした。主の無限の思いやりと、主の戒めに従順であるときに主が果たしてくださる約束によっ

て、わたしたちが祝福を受けてきたことを確信しています。

そして、経済的な試練が続く日々がついに終わりを告げました。過去数年間、主がわたしたちに与えてくださった祝福は驚くべきものでした。

什分の一を忠実に納め、他の人の生活に祝福をもたらすという志をもって愛を込めてささげ物をする人々には、必要なものが全て与えられ、わたしと家族のように、さらに素晴らしい何かが起こることを知っています。祝福が増し加えられます。そうなることを知っています。わたしが身をもって経験したからです。■

おいしそうに見えますか

もう一度見てください。サタンはわたしたちに本当の喜びを、決して満足することのない、幸せに見せかけた幻影と交換させようとしているのです。決して手を出さないでください。

(ディーター・F・ウークトドルフ「あなたなら、今できます」「リアホナ」2013年11月号、56参照)



「わたしは学校で、
末日聖徒であるということからかわれます。
自分の信じることを
毅然と守る必要があることは
分かっていますが、
とても難しいです。
どうすれば、必要な勇気が
得られますか。」

あなたの言うとおりに、このような状況に立ち向かうには勇気が必要です。イエス・キリストは次のように命じられました。「立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためであ[る]。』（教義と聖約 115：5）しかし、勇気をもって光を輝かせることが、からかう人にははっきり抗議することを意味しているのかもしれませんが、そうではないかもしれません。

どちらの場合も、逆境をさらなる成長のきっかけにすることができます。証を強めようと一生懸命に努力するときに静かな勇気を育てることができ、その勇気によって、はっきり抗議したり、あるいは、正しいことを肅々と行い続けることができます。

からかわれれば腹も立つでしょう。しかし、人々があなたを通してキリストの愛を感じられるよう、あなたの心が慈愛で満たされるように祈ることもできるのです（モロナイ7：48 参照）。状況はそれぞれ異なりますから、そのときの状況に合わせてキリストの方法で対処できるよう、御霊の導きを求めてください。

状況にもよりますが、最善の方法とは、あなたをからかった人と個人的に話すことかもしれませんが、あるいは、意地悪な言葉など無視して自分の信じることに従ってこれまでどおり生活することもできません。あなたの言葉を聞く気もないと言う人に送ることができる最高のメッセージは、優しさ、赦し、誠実さの模範を示すことかもしれません。

真の勇気を示す

やめてほしいと勇気を出して言うだけでは、人はからかいをやめないかもしれませんが、あなたが勇気をもって末日聖徒としての生活を送ることで、やめるようになるかもしれません。そのうちに、あなたの勇気を喜ばれる天の御父の光があなたに注がれるようになります。その光によって、その人たちの目が開かれ、あなたの生活に息づく回復された福音に気づくようになるかもしれません。

ブライト・U, 17歳 (ナイジェリア, イモ州)

基本的なことに力を見いだす

祈りと断食が大切です。イエス・キリストが地上におられたときにひどくあざけられたように、わたしたちがからかいの種にされたり困難な状況に陥ったりするときに力となるからです。祈りと断食は、人々への愛と忍耐を深める力となります。

ウォルター・C, 15歳 (ペルー, ハエン)



祈りを通して 導きを受ける

わたしは長い間、学校で唯一の教会員でした。親しい友人たちはわたし

のことを理解してくれているようでしたが、他の友達はわたしをからかっていたいました。ある日祈っていると、わたしをからかうようけしかけていた人たちの中の一人に話をしなければならぬと感じました。自分は彼に対して怒ってはいないが、彼自身が人から示してほしいと思うように、わたしにも敬意を示してほしいと彼に話しました。わたしたちの会話を耳にした一人

の教師が、その後何か起こったときにいつもわたしを守ってくれるようになりました。あなたが人と話をするときに、主がともにいてくださることを知っています。

シャネラ・S, 14歳
(フィリピン, バンガシナン州)

証を強める

最初に、あなたが人々に伝えたいと思っている真理について真の証を得てください。その次に、あなたをからかう人々を愛し、その人々と口論しないでください。神が争いを奨励なさることは決してないからです(3ニーファイ11:29参照)。何より大切なことは、いつも御霊がともにいてくださるよう努力することです。御霊は、あなたがもっと大きな愛と勇気を持つことができるように助け、あなたの言葉に力を与えてくださいます。

ジュリア・F, 19歳 (ドイツ, ヘッセ)



敵を愛する

わたしも同じような経験があります。信仰を持ち、謙遜になるならば、「敵を愛し、迫害する者のために祈〔る〕」(マタイ5:44)ための必要な力と信仰が祝福として与えられます。どうすれば強くなれるかわかるように、聖文を探求することをお勧めします。信仰のために孤独を感じる時、祈ってください。ローマ第8章31節には「それでは、これらの事について、何と言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか」とあります。あなたには神がついておられ

ます。どんなことも可能です。

リーガン・T, 15歳
(アメリカ合衆国, ユタ州)



恐れなくてください

自分の宗教についてもっと頻繁に話しましょう。あるいは意図的に宗教が話題に上るようにしましょう。わたしも同じような経験があったとき、バックバックに“I Love Being LDS”(末日聖徒でよかった)と書きました。そうすることで、何度も伝道の機会が与えられ、自分が末日聖徒であることを知られるのを恐れていないと示すことができました。何をやるにしても、からかう人々に心を乱されないようにしてください。彼らのために、そして自分のために祈ってください。人々の救いに一生懸命取り組むなら、御父の福音の真理を彼らに知らせることがそれほど怖くなくなるでしょう。

サバンナ・P, 14歳
(アメリカ合衆国, テキサス州)



自らの確信に勇気を持つ

「大勢の中で自分だけ人と異なり、信念を貫くのは容易なことではありません。人がどう思い何を言うかを恐れるのは無理からぬことです。詩篇の次の言葉を慰めとしましょう。『主はわたしの光、わたしの救いだ、わたしはだれを恐れよう。主はわたしの命のとりでだ。わたしはだれをおじ恐れよう。』(詩篇27:1)キリストを中心とした生活を送るとき、確信に満ちた勇気が恐れに取って代わります。」

トーマス・S・モンソン大管長
「模範となり、光となる」
「リアホナ」2015年11月号, 88

次回の質問

「どうしたら
神がわたしの祈りを
聞いてくださっていると
分かりますか。」

あなたの意見と、希望する場合は高解像度の写真を、2016年5月1日必着で liahona@lds.org に投稿するか、電子メールで liahona@ldschurch.org までお送りください。郵送することもできます(郵送先については、3ページをご覧ください)。

電子メールまたは手紙には、次の情報と同意文を必ず明記/同封してください。(1)氏名、(2)生年月日、(3)ワードまたは支部、(4)ステーキまたは地方部、(5)意見と写真の掲載を許可するというあなたの同意文(18歳未満の場合は保護者の同意文も必要です〔電子メール可〕)。

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。



十二使徒定員会
デビッド・A・
ベドナー長老

使徒は何をする人ですか



使徒は主のしもべです。使徒は世界中の教会員をおとずれます。
わたしが初めて使徒として旅をしたとき、知恵の言葉をなかなか守れない男の人に会いました。わたしはかれに言いました。「主は、あなたにとっても簡単なメッセージを伝えるために、わたしをここにつかわされました。あなたにはこれができます。あなたがこのチャレンジに立ち向かうとき、主の助けを受けられると約束します。」

主はたった一人の人を助けるために、十二使徒の一人を地球の反対側につかわされるでしょうか。その答えは、「はい」です。いつも主はそうされます。■

ベドナー長老としまいと直接対話する世界衛星放送から。



ちゅうおうわか じよせいいかいりやうかい
中央若い女性会長
だいいち こころ
第一顧問
キャロル・F・
マッコンキー

こころ へい あん
心の平安



わたしは8才のとき、預言者であるデビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)を見ました。アメリカ合衆国ニューヨーク州のパルマイラに新しく建てられた、教会の建物をほうけんするために来たのです。わたしの家族はほうけん式に行きました。たくさんの人も来ました。わたしたちはみんな、預言者を見られるのでわくわくしていました。

小さかったわたしは、たくさんの人に囲まれて預言者がよく見えませんでした。でも、マッケイ大管長の愛は感じる事ができました。少しの間でしたが、白いかみの毛とやさしい顔を見ることができました。わたしは、「神の預言者はこういう人なのだ」と思いました。聖文の中で預言者につ

いて読んだことはありましたが、預言者や中央幹部を直接見たのは初めてでした。預言者が本当にいることが分かりました。そしてわたしたちを愛していることも分かりました。わたしはその日感じた愛と平安をいつまでも覚えていでしょう。

11才のときも、心に平安を感じる経験をしました。ステーキ大会が近づいていたので、わたしはステーキの聖歌隊に入ることにしました。わたしはとても楽しみにしていました。すてきな白いブラウスを着て、特別な気持ちを感じました。その歌の歌詞には、ヨハネによる福音書第14章27節のせいくがふくまれていました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたにあたえ

る。わたしがあたえるのは、世があたえるようなものとはことなる。あなたがたは心をさわがせるな、またおじけるな。」

そのせいくはとてもわたしの心にひびいて、そのときからずっと心に残っています。その歌を歌ったとき、その歌詞に書かれていることは真実だと分かりました。イエス・キリストにしたがうことによって平安を感じられることを、せいいが教えてくださるのを感じました。そのときから、むずかしいチャレンジにあうたびに、そのせいくが心にうかび、平安をあたえてくれます。おさないころに学んだ真理は、それからの人生で祝福をあたえてくれました。■

イラスト/エミリー・ベニー

イーサンのあかし

ラリー・ヒラー

本当にあったお話をもとに書かれました。

「聞いて、聞いて、せいいいがささやいて
くださいます。小さな細い声を聞いてくだ
さい」(『子供の歌集』[英語] 106)

イーサンは分かち合いの時間に、親友
のサムがあかしをするのを、すわっ
て見ていました。友達サラが自分の番
を待っていました。サムは、自分がした奉
仕活動について話しました。奉仕につい
てあかしがあると言いました。サラは
家族についてあかししました。イーサ
ンの先生もあかしをして、神殿活動
について話しました。みんな、教
会が真実だとあかししました。
イーサン以外は、みんなあかし
を持っているように思えまし
た。

「ぼくには何のあかしがある
んだろう。」イーサンは心配に
なりました。

何年前、自分と友達がバプテスマを
受けたときのことを思い返しました。初等
協会の教師であるカルダーしまいが、せい
れいについてお話してくれました。

「せいいいは、あなたの心にもえるような
気持ちをあたえてくださいます。何が真
実か分かるように助けてくださいます」
と教えてくれました。「そうやって自分
が信じることについてあかしを持つ
のです。」

イーサンはせいいいを感じられるよ
うに、正しいことをしようとしました。
聖文を読んで、いのりまし
た。でも、みんなが話
すような、もえるような
気持ちは感じたこと

イーサン以外は、みんな
あかしを持っているように
思えました。





がありません。それって、自分にはあ
かしが無いということなのでしょうか。

次の日、一日中、その思いが頭か
らはなれませんでした。放課後、サム
と一緒にスケートボードをしていると
きも、まだそのことを考えていました。
サムにどうやってそのことを聞いたらい
いいだろうと思いました。

「ねえ、サム」ようやくイーサンは聞
いてみました。「昨日、あかしをした
とき、こわくなかった?」

サムはスケートボードから下りる
と、しばふの方に歩いて行きました。
「いや、そんなことないよ」と
言いながら、すわりました。「前
に、家庭の夕べであかしをしたこと
があるから。」

イーサンもサムのとなりにすわると、
スケートボードをひざに乗せました。
「でもさ、自分にあかしがあるってどう
やって分かったの?」

「そうだなあ、おいのりして、良い気
持ちを感じたんだよ。」

イーサンはゆっくりうなずきながら、
スケートボードのタイヤを手で回しま
した。自分もそんなふうに感じたい
なあと思いました。

そのばん、暗く静かな家の中で、
イーサンはベッドのそばにひざまずい
てのりしました。

「天のお父様、あかしが持
てるように助けてください。

教会が真実であるこ
とや、

ジョセフ・
スミスが預言

者であること、モルモン書は真実の書
物であることを知ることができるよう
に助けてください。」

おいのりの途中で、イーサンは話す
のをやめました。少しの間考えま
した。そして自分の心に聞いてみま
した。「自分は何か知っていること
があるかなあ。」

すると、静かで平安な気持ちに包
まれました。力強い、もえるような気
持ちではありませんでした。でも、
イーサンはそれがせいれいだと分かり
ました。

イーサンの中に、あることが思いう
かびました。「ぼくは自分が知っている
ということを知っている」と。それ
について考えたとき、前にもこの平安
な気持ちを感じたことがあると気づ
きました。

モルモン書を読むたびに、良い気持
ちと正しいという気持ちを感じまし
た。その気持ちは、せいれいが自分
にあかししてくださっているのだと分
かりました。教会に行ったとき、良い
気持ちが出て、そこにいることは正し
いと感じました。それもせいれいでした。
もうあかしをもらったのです。

今、すべてのことを知る必要はない
のです。でも、せいれいが本当にいらっ
しゃって、あかしを強められるように
助けてくださることが分かりました。

イーサンはもう一度おいのり始めま
した。でも、今度は感謝するためで
した。■

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ユタ州
に住んでいます。

天のお父様に ささげるペソ*

アンジェラ・ペニャ・ダーリ

「いましめを守る人を神は守りみちびかん」(『子供の歌集』68-69)

トルティーヤ(中南米のうすやきパン)を食べていたアナは、最後の一口をほおばりました。やわらかくて、おいしいトルティーヤでした。アナはおばあちゃんのトルティーヤが大好きです。朝ごはんで、一番好きなメニューでした。

アナはアブエラおばあちゃんがお皿をあらうのを見ていました。いつもと同じ朝でした。でも、一つだけちがっていました。

アブエラおばあちゃんはいつも、歩いて市場に買い物に行くのですが、今日はちがいました。今日は食べ物を買うお金がなかったのです。

「あした、何を食べるのかしら?」とアナは思いました。

そのとき、アナは思い出しました。アナは、お金がある場所を知っていたのです。昨日の夜、アブエラおばあちゃんが、小さな白いぬのに何まいかのペソを入れるのを見たのです。

「アブエラおばあちゃん、わすれたの? 食べ物を買うお金、あるわよ。」

「どのお金のこと?」アブエラおばあちゃんが聞きました。

アナは急いでお金を取りに行きました。お金が入っている小さなふくろをふってみました。チャリン。チャリン。

アブエラおばあちゃんはにっこりしました。「それは、わたしたちの仕分の一よ、アナ。主のお金なの。」

「でも、わたしたち、あした何を食べるの?」アナは聞きました。

「心配はいらないわ」とアブエラおばあちゃんが言いました。「それはね、天のお父様が助けてくださるといふ信仰があるからよ。」

次の日の朝、アブエラおばあちゃんはアナに最後のトウモロコシの粉で作ったトルティーヤをくれました。そして、いすにすわりました。おばあちゃんは、赤い花をワンピースにつけながら、自分の小さいころの話をしてくれました。全然心配していないよう



でした。

そのとき、アナはドアをたたき音が聞こえたので、ドアのところに急いで行って見ました。

「ペドロおじさん！」

「二人のところに行かないといけないと感じたんだ」とペドロおじさんは言いました。おじさんは、ふくろを3つテーブルの上に置きました。一つには、トルティーヤを作るためのトウモロコシの粉が入っていました。もう一つには、肉が入っていました。3つ目には、市場から買ってきたばかりの新鮮な野菜が入っていました。

「まあ、やさしい子だこと」とアブエラおばあちゃんは言いました。「最高に美味しいミートボールスープを作ってあげましょうね。」

「母さんのスープは世界一だよ」とペドロおじさんが言いました。

アナは笑いながら手をたたきました。

それから手を止め、笑うのもやめました。一つ知りたいことがあったのです。「アブエラおばあちゃん、ペドロおじさんが今日来るって知っていたの？ だから心配していなかったの？」

「いいえ」とおばあちゃんは言いました。「什分の一をおさめるとき、天のお父様が祝福してくださるという信仰があるの。そして、本当に祝福してくださったわ。」

アナはおばあちゃんをだきしめました。自分はメキシコで

いちばんしあわせなおんなの子だと思いましたが、アナとアブエラおばあちゃんは天のお父様に信仰を持っていました。今、アナはアブエラおばあちゃんのおいしいスープが楽しみでなりません。

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ノースカロライナ州に住んでいます。
*ベソ — 中南米のお金の名前

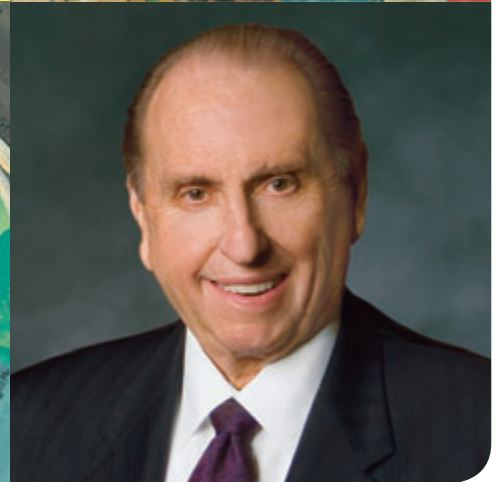


よげんしゃ　しと 預言者と使徒にしたがう

ジェナ・コフォード



かみさま　し
神様はわたしたちに知ってほしい
ことを教えるために、よげんしゃ
使徒をおめしになります。せいぶん　なか
聖文の中には、ノアやニーファイ、ジョセフ・ス
ミスなどのよげんしゃ
預言者や、ペテロやパウロ
などの使徒について書かれています。
こんにち　よげんしゃ　しと
今日も、預言者や使徒がいます。



「主は御自分の言葉を成就される」の一部「クラーク・K・フレイス画」「ジョセフ・スミス・ジュニアの二部」ダンカト・Aウエズランド画
「新約聖書の物語」の一部「ポール・マン画」聖の建設を指示する「イファ」と「ハイ」の一部「シエリート・シフン画」イラスト「ガース・ブルナー」

よげんしゃ せいけんしゃ しゃ
「預言者、聖見者、けいじ者」とは
 何でしょうか。



よげんしゃ かみさま か はな
預言者は神様に代わって話
 します。

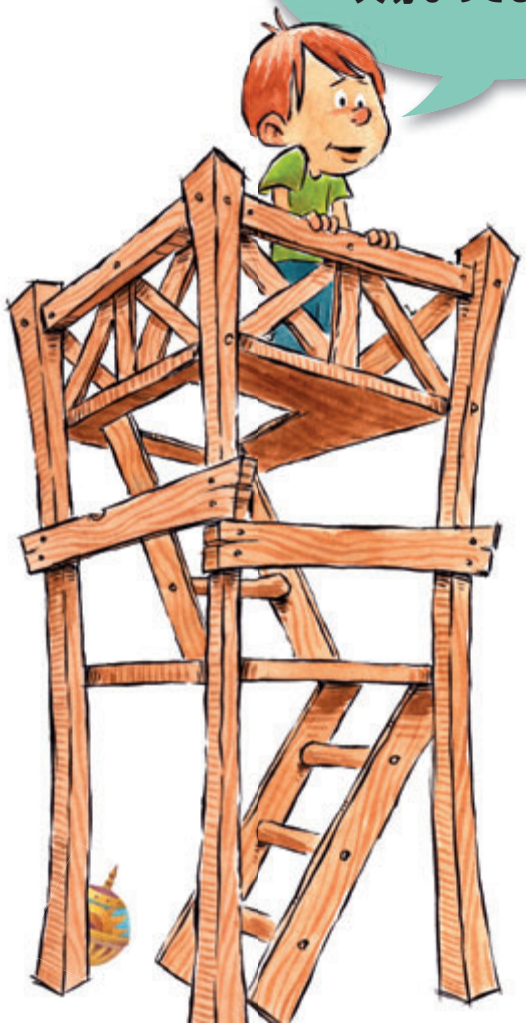
せいけんしゃ か こ
聖見者は、過去・げんざい・
 未来を見ることができます。

けいじしゃ かみ
けいじ者は、神のみこころを
 わたしたちに明らかにします。

- だいかんちょうかい かいいん はすべて、よげんしゃ せいけんしゃ
 大管長会の会員はすべて、預言者、聖見者、けい
 じ者です。使徒も同じです。
- きょうかい だいかんちょう ぜんきょうかい
 教会の大管長だけが、全教会をみちびくための
 けんのを、神からさずかっています。
- いま ぜん ぶ なんにん い よげんしゃ せいけんしゃ けいじ
 今、全部で何人の生ける預言者、聖見者、けいじ
 者がいるでしょうか。

12 15 3 1

なぜ
 よげんしゃ
預言者にしがうことが
 たいせつ
大切なのでしょう。



よげんしゃ みまも ひと
 預言者は、とうから見守っている人に、にています (38 ページ
 も見ましょう)。きけんが近づいているのを見ることができ、
 どうしたらあんぜんでいられるかを教えてくれます。わたしたちが
 イエス・キリストにしがえるように、たすけてくれます。

Y 91 — 73

よげんしゃ
これまで預言者は、
 わたしたちに何をするように
 なた
語ってきたのでしょうか。



こんにち よげんしゃ だいかんちょう
 今日の預言者は、トーマス・S・モンソン大管長です。モンソン大管長はわたし
 たちに次のようなことをするように言っています。

- イエスのもはんにならって、すべての人を愛してください。
- じゅうぶん いち せんきょうし きん けんきん
 十分の一をおさめ、宣教師基金に献金してください。
- よくないえいが、テレビやその他のメディアをさけましょう。
- 全ての寝室に神殿の絵をかざってください。
- そうたいの話を研究してください。
- お年よりを訪問し、良い隣人になってください。

リストの中から一つ選んで、今月できることをしてください。あなたは何をす
 つもりですか。■

くいあらためた アルマ

アルマは、わるい王おうさま ノアの さいしでした。アルマは、よげんしゃ アビナダイが いましめについて 教おしえるのを 聞ききました。アルマは、自分じぶんの 生活せいかつを かえて、わるいことを やめて、かみに したおしがわなければ ならないと 分わかりました。アルマは、アビナダイが 教おしえたことを 書かきました。アルマは、ほかの 人人ひとびとに ふくいんを 教おしえはじめました。後あとで、けっこんして 子こどもが 生まれ、むすこの 一人ひとりに アルマという 名前なまえを つけました。




ぼくは、ゴールキーパーを しておいて、とても 上手じょうずに できていました。そのとき、きのう いじわるを 言いったことを、くいあらためる ひつようが あるのを 思おもい 出だしました。そうしなければ ならないと 思おもいましたが、サッカーを しておいる さいちゅうでした。そのとき、あることを 思おもい 出だしました。ひつようなときは、どこでも いの ることおが できるといことです。いのつた後あと、 くいあらためたことについて よい 気きもちが しました。

ピーター・G, 8才さい (アメリカがっしゅうこく, ユタしゅう)



デーモン・B, 8才さい (アメリカがっしゅうこく, ユタしゅう)

 切きって、おおって、チャレンジカードを いつも ももっていましょう。

わたしは くいあらためることが できます。

- モーサヤ 18:9 を あんきしましょう。
- そう大会たいかいで よげんしゃが 言いったことを、字じで 書かいたり、絵えで かかいたりしましょう。
- もっと よよくなるために、かえられることを 一ひとつ えらびましょう。今こん月げつ ややってましょう。
- わたしは、自分じぶんの _____ 等なところを かかえます。

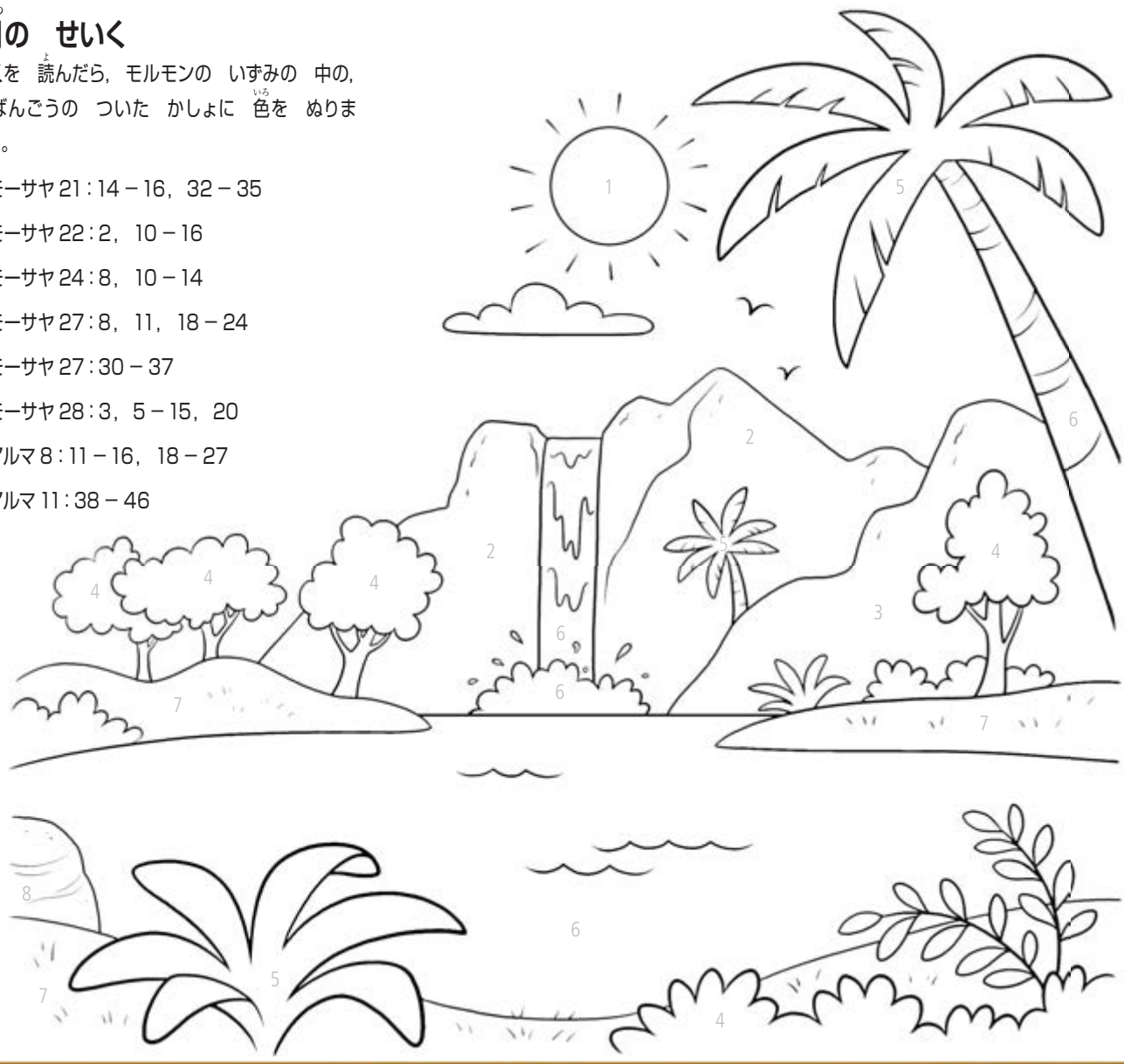
アルマ

わたしは モルモン書を 読むことが できます

こんげつ
今月の せい

せいを 読んだら、モルモンの いずみの 中の、
 そのばんごうの ついた かしょに 色を ぬりま
 しょう。

- 1 モーサヤ 21:14-16, 32-35
- 2 モーサヤ 22:2, 10-16
- 3 モーサヤ 24:8, 10-14
- 4 モーサヤ 27:8, 11, 18-24
- 5 モーサヤ 27:30-37
- 6 モーサヤ 28:3, 5-15, 20
- 7 アルマ 8:11-16, 18-27
- 8 アルマ 11:38-46





モルモンの いずみ

アルマは、わるい ノア王から にげて、モルモンの いずみと
 よばれる へいわな ばしょに かくれました。たくさんの 人
 びとが アルマに ふくいんを おしえてもらうために やって来ました。
 かれらは、バプテスマを うけたいと おもいました。アルマが かれら
 に バプテスマを ほどこしたとき、人人は やくそく、せいやくを
 かわしました。それは、わたしたちが バプテスマを うけるときに
 かわすのと 同じ ものです。この やくそくについて つぎの ページ
 に もっと 書いてあります。■

印刷：2016年3月25日
 発行：2016年4月1日
 編集：2016年3月25日
 校正：2016年3月25日
 設計：2016年3月25日
 印刷：2016年3月25日

多くの ^{お お}人に ^{ひと} バプテスマを ほどこす アルマ



アビナダイは よげんしゃでした。
アビナダイは、人人に イエス・キリストを
しんじて わるいことを やめるように 教え
ました。ノアという 名前の わるい 王さまは、
アビナダイに はらを 立てました。ノアは、くい
あらためたくなかったのです。



アルマという 名前の 人が、アビナ
ダイの 言うことを しんじました。
アルマは おこった 王さまから に
げだして、かくれました。自分が お
かした 間ちがいについて かなしく
思った アルマは、アビナダイが 教
えたとおりに、くいあらためました。



たくさんの ^{ひとひと} 人人が、
アルマが ふくいんについて
^{おし} 教えるのを ^き 聞きに ^き 来ました。
アルマは、もしも ^く くいあらためて イエス
に ^し したがうなら、バプテスマを ^う ける
ことが ^{おし} できると ^{おし} 教えました。

^{ひとひと} 人人は、^て 手を ^た たいて ^{よろこ} よろこび
ました。^{ひとひと} 人人は、^{ほか} ほかの ^{ひと} 人を
^な なくさめると ^{やくそ} やくそくしました。
^{ひとひと} 人人は、^か かみを ^あ あいして、
^{ひとひと} 人人に ^か かみについて ^{はな} 話すと
^{やくそ} やくそくしました。かれらは、
バプテスマを ^う ける ^{じゅん} じゅんびが
できていました。





アルマは、^{ひとり}一人 ^{ひとり}一人に バプテスマを ほどこしました。かれらは、
イエスの ^{きょうかい}教会の ^{いち}一いんに なれたことを とても うれしく ^{おも}思
いました。

わたしたちは バプテスマを うけるとき、アルマに したがった
^{ひと}人人と ^{びと}同じ ^{おな}やくそくを かわします。そして わたしたちも イエス
の ^{きょうかい}教会の ^{いち}一いんに なるのです。■

あんそく日は とくべつな 日





大管長会第一顧問
ジョージ・Q・
キャノン管長
(1827 - 1901年)

御^み霊^{たま}の賜^{たま}物を 求める

神が授けると約束しておられるこれらの賜物を、どれだけの人が求めているのでしょうか。

キリストの教会に属する男女には、各人の信仰に応じて、また神の御^み心^{こころ}に従って、神の御^み霊^{たま}の賜^{たま}物が分け与えられます。……

神が授けると約束しておられるこれらの賜物を、どれほどの人が求めているのでしょうか。家族の祈りの輪の中で、あるいは人目につかない場所で独りで、天の御父の御^み前^{まへ}に頭を垂れ、これらの賜物を授けてくださるよう求めている人がどれほどいるのでしょうか。どれほどの人が、このような力と賜物を通して御自身を現してくださるよう、イエスの御^み名^なによって天の御父に求めているのでしょうか。あるいは、このことについて何も感じることなく、ちょうつがいの動くままに開閉する戸のようにただ漫然と日々を過ごしているのでしょうか。まったく信仰を行使することなく、バプテスマを受けたら自分の救いは確実だと思ひ込み、バプテスマを受けてこの教会の会員になったのだから、と満足して教会でのんびりしているのでしょうか。……



……神は病人を癒やしたいと望んでおられます。霊を識別する賜物や知恵の賜物、知識と預言の賜物その他の賜物を、必要に応じて授けてくださいます。わたしたちの中に不完全な人がいるならば、その人の義務は、自分を完全にしてくれる賜物を祈り求めることです。わたしには欠点があるのでしょうか。欠点だけですか。わたしの義務は何でしょうか。その欠点を直すための賜物を与えてくださるよう神に祈ることです。もしわたしが怒りっぽい人であれば、わたしの義務は、長く耐え忍び、思いやりを持てるよう慈愛を祈り求めることです。妬み深い人ならば妬むことのない慈愛を求める

義務があります。福音の賜物は全てそうです。あらゆる賜物は、この目的で授けられます。「しかたがない、これはわたしの性分だから」など言うべきではありません。それは言い訳になりません。なぜなら、神はそのような欠点を正す力と、欠点をなくしてくれる賜物を授けると約束しておられるからです。知恵に不足している人は、知恵を神に願い求める義務があります。他のことについても全て同じです。神は教会に関してそのように定められたのです。神は聖徒らに、真理にあって完全となるよう望んでおられます。彼らが多く弱さを持っているにもかかわらず地上にあって完全な人となれるよう、このような賜物を用意し、求める人に授けてくださいます。なぜなら、神は人が完全になるために必要な賜物を与えると約束しておられるからです。■

The Latter-day Saints Millennial Star, 1894年4月23日付, 258 - 261より。原文(英語)においては、句読点、大文字は標準用法に修正。

洞 察



幼い頃の信仰は、どのようにして知識と証^{あかし}へと成長するのでしょうか。

「わたしは天の御父とイエス・キリストを信じなかった時期を思い出すことができません。天使のような母の膝元で、聖文や福音の物語を読み、御二方のことを学んだ幼い頃からずっと御二方を愛してきました。幼い頃の信仰は今や成長し、祈りを聞きこたえてくださる愛にあふれた天の御父についての知識と証になりました。」

今月号のその他の記事

ヤングアダルト



サタンの偽りを見破る

44
ページ

サタンのうそと主の真理とを見分ける鍵となる方法の一つを紹介します。

青少年

内気な

人でも

60
ページ

福音を分かち合うのに自分が内気すぎると感じたり、
恐れを感じたりしたことがありますか。
ここに幾つか提案があります。



子ども



預言者と使徒にしたがう

72
ページ

今月、預言者トーマス・S・モンソン大管長にしたがうために、
あなたができることは何でしょうか。